

# 静岡県水田農業の現状



令和6年3月

静岡県 経済産業部 農業局 農芸振興課

# 目 次

静岡県水田農業振興基本計画	1
1 基本計画の位置づけ	
2 静岡県水田農業の目指す姿	
3 静岡県水田農業振興基本計画（令和4年度～令和7年度）の要旨	
I 新たな消費の創出	3
1 ブランド化の推進	
2 6次産業化等の推進	
3 今後の方向	
II 生産力の強化	9
1 水田の担い手への集積と大区画化・汎用化	
2 技術の開発と普及	
3 水田の有効利用の推進	
4 主要農作物種子の生産について	
5 種苗法の一部改正について	
6 今後の方向	

## 1 水田農業の状況

(1) 米穀等生産状況	16
(2) 水稲生産状況	17
ア 水稲生産状況の推移	
イ 農林事務所管内別の水稲生産状況	
ウ 市町別の水稲生産状況	
(3) 水稲品種構成	20
ア 水稲品種別作付面積	
イ 農林事務所管内別の水稲品種別作付面積	
(4) 水稲被害状況	22
(5) 県内農業における稲作	23
ア 農業産出額	
イ 相対取引価格	
ウ 販売農家に占める稲作付農家の比率	
(6) 経営規模	24
ア 田の面積規模別経営体数	
イ 田の経営耕地面積規模別経営体数（農林別）	
ウ 田の経営耕地面積規模別面積（農林別）	
エ 田の経営耕地面積規模別経営体数（市町別）	
(7) 土地条件	26
ア 耕地面積及び拡張・かい廃面積	
イ 農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率（田）	
ウ 水田区画整備状況	
(8) 稲作経営統計	27
ア 水稲作収益性	
イ 水稲作生産費	
ウ 水稲作作業別の労働時間	
(9) 農地の流動化と作業受委託	29
ア 農林別の農用地区域面積と担い手への利用集積率	
イ 水稲作作業委託農家数	
ウ 水稲作作業受託農家数	
エ 水稲作作業受託面積	
オ 主要農業機械所有台数	

<b>2 米の農産物検査状況</b>	
(1) 種類別農産物検査状況	31
(2) 農産物検査結果(玄米)	31
(3) 銘柄別農産物検査結果(玄米)	32
(4) 農産物検査を行う産地品種銘柄	33
<b>3 水稻種子生産状況</b>	
(1) 水稻採種ほ設置面積	34
(2) 水稻種子確保状況	34
(3) 水稻種子配布実績	35
(4) 水稻奨励品種の改廃	35
<b>4 麦・大豆生産の状況</b>	
(1) 麦・大豆の作付面積及び収穫量	36
(2) 小麦生産状況	36
(3) 大豆生産状況	36
<b>5 主要農作物奨励品種</b>	
(1) 水稻	37
(2) 小麦	38
(3) 大豆	38
<hr style="border: 2px solid black;"/>	
<b>1 令和5年産水稻の生育概況</b>	
(1) 早期栽培コシヒカリ	39
(2) 普通期栽培	40
(3) 病害虫の発生状況	42
(4) 稲作期間の気象概況	44
<b>2 全国の稲生産状況</b>	
(1) 令和5年産水稻の生産状況	46
(2) 令和4年産都道府県別水稻うるち品種別作付状況	47
<b>3 米の需給状況</b>	
(1) 需給の推移(全国)	48
(2) 需給状況(全国)	48
(3) 需給状況(静岡県)	51
(4) 消費量の推移(全国)	52
<b>4 令和4年度経営所得安定対策等交付実績</b>	53
<b>5 お米日本一コンテストinしずおかの開催</b>	
(1) 第20回お米日本一コンテストinしずおか(令和5年度)	54
(2) お米日本一コンテストinしずおか開催概要	55
<b>6 「にじのきらめき」の来歴及び特性の概要</b>	56
(1) 来歴	56
(2) 本県での試験結果	56
(3) 系譜	56
(4) 特性	57
<b>7 「令和誉富士」の来歴及び特性の概要</b>	58
(1) 来歴	58
(2) 系譜	58
(3) 特性	59

# 第1 静岡県水田農業振興基本計画

## 1 基本計画の位置づけ

- ・ 「静岡県経済産業ビジョン2022～2025」の下位計画とする。
- ・ 本県水田農業の概ね4年間の基本方針、政策体系を掲げる。
- ・ 令和7年度までの具体的な施策、目標を示す。

## 2 静岡県水田農業の目指す姿

本県には、現在約21,400haの水田があり、ここで生産される米、麦、大豆など約8万トンの穀類・豆類はほぼ全量が県内で消費され、県民の豊かな食生活実現の一端を担っている。

また、適正に管理された水田は美しい景観の形成、気候緩和などの多面的機能により県民生活の質の向上に貢献している。

このような水田の機能を将来にわたり維持するため、概ね4年後の本県水田農業の目指す姿および具体的な目標指標を以下のとおりとする。

### (1) 目指す姿

- ・ 県民の多様な需要に応じた米、麦などが生産され、県民は地元の高品質な農産物やその加工品を享受している。
- ・ 水田農業について、高い競争力を持った経営体を中心となり、多様な担い手とともに地域の水田を有効に活用し、高い生産力で付加価値の高い産物を生み出す農業構造が実現されている。
- ・ 水田が有効に活用され、景観形成、洪水調整、気候緩和などの多面的機能が発揮されている。

### (2) 主な目標指標

ア 農業産出額、水田における高収益作物作付面積 (単位：億円、ha)

	実績			目標
	令和2年	令和3年	令和4年	令和7年
農業産出額 (米、麦類、豆類)	172	162	168	185
高収益作物栽培面積 (水田)	622	808	823	900

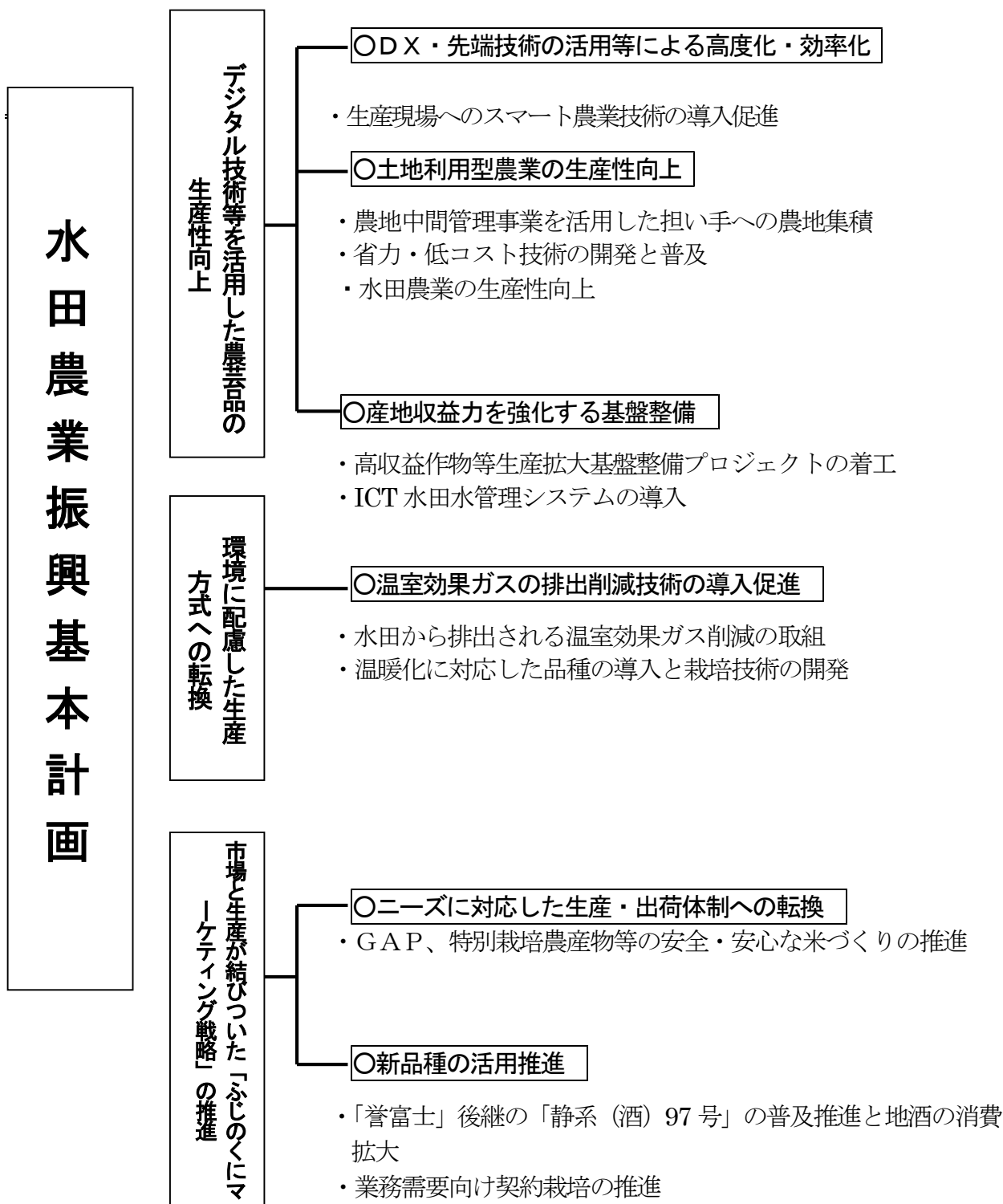
イ 水田の耕地利用率

	実績			目標
	令和2年	令和3年	令和4年	令和7年
水田の耕地利用率 (%)	94.3	94.2	93.9	100
水田作付延べ面積 (ha)	21,400	21,200	20,100	22,500
水田面積 (ha)	22,700	22,500	21,400	22,500

ウ ビジネス経営体数

	実績			目標
	令和2年	令和3年	令和4年	令和7年
ビジネス経営体数 (経営体)	18	20	21	30

### 3 静岡県水田農業振興基本計画（令和4年度～令和7年度）の要旨



# I 新たな消費の創出

## 1 ブランド化の推進

	【R3～R5の平均】	【R7目標】
家計調査による米の購入に関する全国順位	購入金額：静岡市1位、浜松市5位 購入数量：静岡市3位、浜松市5位	全国1位

県民の多様な需要に応えるとともに、県産米の利用を促進するため、コンテストを開催した。

食の安全に対する信頼を高めるため、農業者自らが農作業の点検、記録、評価に取り組むGAP（農業生産工程管理）の推進を図った。

## ○ 推進事項とその成果

### (1) お米日本一コンテスト等を活用した売れる米づくりの推進

#### ア お米日本一コンテスト最終審査会の開催

良食味米産地の育成、消費拡大を目的に「第20回お米日本一コンテスト in しずおか」を開催した。

34道府県から510点の出品があり、御殿場市のJAふじ伊豆青壮年部高根支部の「コシヒカリ」が「最高金賞」と「静岡県知事賞」、御殿場市の杉山浩也氏の「歓喜の風」が「最高金賞」を受賞した。

産地では、受賞結果を活用した販売促進が行われている。



グランシップで最終審査を開催

#### イ こだわりの米産地の育成

こだわりの米とは、県内各地で取り組んでいる特別栽培農産物や食味にこだわった栽培方法などにより一定の評価を得ている地域ブランド米を、県産米の牽引役として位置づけているものである。



こだわりの米取組事例

商品名	品種	特徴と今後の見通し
J A おおいがわ産 金芽米	きぬむすめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>東洋ライス独自の精米技術を利用した栄養価の高い高付加価値米</li> <li>2019年の生産量が400トンに達し、J A おおいがわ管内に金芽米製造のための精米工場を設け、原料生産から加工、販売までを一貫して行う。</li> </ul>
するがの極	きぬむすめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>J A ふじ伊豆が定めた厳格な成分数値基準を達成した1等米だけを認定</li> <li>2026年に出荷量400トン、1億円の販売を目指す。</li> </ul>
静岡そだち	コシヒカリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>食味値83点以上の静岡県産コシヒカリを厳選した新ブランド</li> <li>静岡県産コシヒカリの約7%のみが認定される。</li> </ul>

ウ 「コシヒカリ」に次ぐブランド品種への取組

生産者の普及指導の中で、「きぬむすめ」と「にこまる」の導入を推進し、更なる良食味・高品質米の生産を図っている。また、J A や産地と連携し、試食販売会やネットショッピング、ふるさと納税の返礼品や贈答品等への活用を通じて、県民への一層の浸透を図り、県内消費者に選択してもらえるブランド米として消費拡大を進めている。

一般財団法人日本穀物検定協会が実施する食味ランキングにおいて、本県産（西部地域）「にこまる」は、平成30年から6年連続で、最高評価の「特A」を取得している。また、本県産「きぬむすめ」についても、3年ぶりに「特A」を取得した。

また、静岡県産のお米の主力品種である「コシヒカリ」については、静岡経済連が令和2年度から、食味値83点以上という高い食味値を設定して食味のよさを追求した、県産コシヒカリの新たなブランド米「静岡そだち」の販売を始めている。



「にこまる」「きぬむすめ」特A取得、ブランド米「静岡そだち」  
 (ともに JA 静岡経済連ホームページより)

## エ しずおか食セレクション認定商品について

静岡県ならではの特徴を備え品質、安全性が担保され、一定規模以上の販売実績を有する農林水産物を認定する「しずおか食セレクション」に、本県産の米としては、伊豆市特別栽培米の「伊豆の恵」(JA ふじ伊豆)、「このはなの恵み」(御殿場小山エコ栽培米出荷組合)と「ふくほまれ」(ふくろいブランド米開発販売促進協議会)の3商品が認定されている。

## (2) G A P、特別栽培農産物等の安全・安心な米づくりの推進

【目標】	【2021 現状】	【2023 実績】	【2025 目標】
G A P 認証取得農場数	75 農場	→ 80 農場	90 農場

「G A P 認証」の取得に取り組む農業者や産地への支援を行い、令和 5 年度までに A S I A G A P、J G A P はそれぞれ 2 農場、しずおか農林水産物認証は 66 農場が認証を取得している。



## 2 6次産業化等の推進

【目標】	【2021 現状】	【2023 実績】	【2025 目標】
「誉富士」 生産量	生産量 234 t 醸造量 約 350kL	→	2022 年度が生産の最終年度 2023 年度から「令和誉富士」に品種変更
「令和誉富士」 生産量	—	→	生産量 320t 醸造量 約 480kL

### ○推進事項とその成果

#### (1) 「誉富士」及び「令和誉富士」の栽培面積、生産量の推移

平成 10 年に「山田錦」の種籾にガンマ線を照射し、突然変異育種法によって農林技術研究所が選抜した、静岡県初のオリジナル酒造好適米品種「誉富士」は、平成 17 年から現地栽培が開始され、年々面積が拡大してきた。

しかし近年は気象災害等の影響により、収量が少なく醸造会社からの需要を下回る生産量となっていたため、農林技術研究所では「誉富士」の収量性を改善した後継品種の育成に取り組み、栽培特性及び酒質ともに優れる「令和誉富士」を開発した。令和 4 年 3 月に奨励品種決定審査会で「令和誉富士」を奨励品種に採用した。「誉富士」については、令和 5 年 3 月末日をもって奨励品種廃止となった。

令和 5 年産から「令和誉富士」の一般栽培が開始され、「令和誉富士」を用いた酒の生産、販売が行われている。



左図： 稲の草姿、上から「山田錦」、「静系（酒）97 号（令和誉富士）」、「誉富士」

右図： 籾及び玄米外観、左から「誉富士」、「静系（酒）97 号（令和誉富士）」、「山田錦」

#### 「誉富士」及び「令和誉富士」の栽培面積、生産量の推移

年産	H20	H23	H30	R1	R2	R3	R4	R5*
栽培面積(ha)	14.9	22.8	68.7	68.8	73.0	64.0	70.8	68.7
生産量 (t)	55.5	71.6	215.0	221.7	167.6	225.3	233.8	254.3

※R5年産は令和誉富士

「令和誉富士」の生産状況（令和5年産）

J A名	ふじ伊豆	しみず	大井川	ハイナン	遠州夢咲	遠州中央	とびあ 浜松	計
農家戸数(戸)	7	0	21	1	3	4	2	38
面積 (ha)	3.3	0	45.9	1.0	4.7	5.8	8.0	68.7
生産量 (t)	8.8	0	160.5	3.7	20.3	21.7	39.3	254.3

「令和誉富士」の醸造会社（令和5年産）

万大醸造（伊豆市）	高嶋酒造（沼津市）	根上酒造店（御殿場市）
富士正酒造（富士宮市）	富士高砂酒造（富士宮市）	牧野酒造（富士宮市）
富士錦酒造（富士宮市）	神沢川酒造場（静岡市）	英君酒造（静岡市）
三和酒造（静岡市）	萩錦酒造（静岡市）	駿河酒造場（静岡市）
静岡平喜酒造（静岡市）	君盃酒造（静岡市）	磯自慢酒造（焼津市）
初亀醸造（藤枝市）	杉井酒造（藤枝市）	志太泉酒造（藤枝市）
大村屋酒造場（島田市）	森本酒造（菊川市）	土井酒造場（掛川市）
山中酒造（掛川市）	千寿酒造（磐田市）	花の舞酒造（浜松市）
浜松酒造（浜松市）		

「誉富士」の地酒醸造量の推移

（単位：kL、％）

年度	H20	H23	H30	R1	R2	R3	R4
県酒造組合醸造量	3,817	3,322	3,803	3,125	3,307	3,221	3,345
「誉富士」の地酒醸造量	83	107	314	332	251	224	336
「誉富士」の地酒の割合	2.2	3.2	8.3	10.6	7.6	10.2	10.0

注）「誉富士」の地酒醸造量は「誉富士」生産量から推計

（資料：静岡県酒造組合）

（2）酒米生産者、醸造者、販売業者が一体となった地酒「誉富士」の消費拡大

「誉富士」で醸造された地酒の需要を拡大するため、平成21年度に設立した「静岡県誉富士普及推進協議会」によるPRイベントの開催や、県酒造組合が開催するイベントへのブース出展などで、ファン層の開拓に取り組んでいる。



令和5年10月1日（日）  
「静岡県地酒まつり IN NUMADU」

### (3) 業務用需要向け品種の生産の推進

主食用米の年間消費量（一人年間当り消費量）はピークの昭和37(1962)年度の118.3kgからほぼ一貫して減少しており、令和4(2022)年度は50.9kgとなっている。このような状況の中、外食・中食向けの業務用米は堅調な需要が期待されていたが、「家計における食料支出」のうち外食への支出は、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少した。その後、コロナ禍から平時へと移行する中、令和5年の外食支出は、インバウンド需要が回復基調になる一方、物価上昇による消費者の生活防衛意識の高まり等の影響もあり、令和元年の約9割の水準で推移している（令和5年度食料・農業・農村白書より）。

本県の業務需要に適する多収米については、農林技術研究所における品種選定試験の実施や、経済連等の関係機関と連携した現地適応性について検討を行っている。中でも「にじのきらめき」は、多肥栽培でも倒伏しにくく、収量性・耐病性・食味に優れる品種として高い評価を得ており、令和2年度に奨励品種に採用した。

#### 主な多収米の特徴

品種名	交配	主な特徴
にじのきらめき	なつほのか×北陸223号	早生、多収、良食味、高温耐性、耐倒伏性、縞葉枯病抵抗性、いもち病抵抗性
ほしじるし	関東199号×さとじまん	中晩生、多収、良食味、耐倒伏性、縞葉枯病抵抗性
歓喜の風	ふくいずみ×あきさかり	早生、多収、良食味、耐倒伏性

### (4) 令和4年度農業産出額の品目別分析について

令和4年度の全国の農業産出額は、米や野菜、畜産において豚や鶏の価格が上昇したこと等により、前年に比べ1,631億円増加し、9兆15億円となった。米については、主食用米の取引価格が前年から回復したこと等により、前年に比べ247億円合増加し、1兆3,946億円（前年比101.8%）となった。

本県の令和4年度の米の産出額は前年比103.7%となる168億円であった。作付面積は15,000ha（前年比98.0%）であった。作況指数は98となった。

## 3 今後の方向

- ① コロナ禍収束による外食需要の回復を見越し、多収性業務用品種の作付を引き続き推進する。
- ② 「令和誉富士」の地酒の消費拡大のため、小売店や酒造会社等と連携した販売促進活動を行う。また「令和誉富士」の安定供給のため、生産者の生産活動を支援する。

## Ⅱ 生産力の強化

### 1 水田の担い手への集積と大区画化・汎用化

【指標】	【2021 現状】	【2023 実績】	【2025 目標】
高収益作物等生産拡大 基盤整備プロジェクト 着工面積	累計 260 ha	→ 累計 666ha	→ 累計 980ha
ICT水田水管理システムの 導入に着手した面積	—	→ 累計 219ha	→ 累計 350ha

\*農地計画課集計

大規模経営体の効率的な管理が可能となるよう、面的な集積や畦畔除去等の簡易整備によるほ場の大区画化を進めるとともに、露地野菜等の高収益作物の生産を拡大するため、暗渠排水整備等により、水田の汎用化・畑地化を図っていく。

#### ○ 推進事項とその成果

##### (1) 農地中間管理事業を活用した水田の担い手への農地集積

水田単作地域において野菜等の高収益作物の裏作導入拡大を図るため、令和元年度から令和5年度までに大区画化や汎用化に向けた整備を累計665.8haで実施している。

また、農地中間管理事業などを活用し、面的な集積を進め、令和6年3月末時点での農地中間管理機構による水稻の貸付面積は3389.6haとなっている。

##### (2) 地下水位制御システム等の導入による水田の汎用化

水田の排水性を高め、地下水位を調節する機能を持つ地下水位制御システムの導入と活用を推進している。令和5年度までに御殿場市0.2ha、菊川市5.0ha、掛川市30.4ha、森町104.9ha、袋井市2.3haで導入された。

地下水位制御システムの導入状況（市町別）

（単位：ha）

	H23～30	R1	R2	R3	R4	R5	計
御殿場市	0.2						0.2
菊川市	5.0						5.0
掛川市	24.5	1.0	1.1	3.8			30.4
森町	22.5	14.0	20.5	17.3	14.3	16.3	104.9
袋井市	2.3						2.3
計	54.5	15.0	21.6	21.1	14.3	16.3	142.8

### 2 技術の開発と普及

	H30	R元	R2	R3	R4
水稻生産費 (円/60kg)	23,616	18,920	18,994	20,088	19,514

本県は、経営規模 1 ha 以下の経営体が水田農業経営体の約 9 割を占めている（2020 年農林業センサスより）ことから、大規模化・低コスト化が進みにくく、10a 当たりの水稲作生産費は全国と比較して高コストになっている。

平成 30 年からの米政策改革を契機に、経営規模の一層の拡大や、生産コストの低減を図るため、直播栽培や通信情報技術（I C T）を活用した水管理システムの現地実証を進めている。

また、近年は「キヌヒカリ」や「コシヒカリ」等、早生品種の出穂～登熟期が高温となることが多く、白未熟粒の発生により等級を下げる原因となっている。この夏期の高温に対応するため、高温耐性品種の「きぬむすめ」、「にこまる」、「にじのきらめき」の栽培技術情報を提供し、普及を推進している。

## ○ 推進事項とその成果

### （1）省力・低コスト技術の開発と普及

#### ア 直播栽培

本県では、稲発酵粗飼料用稲（W C S 用稲）を中心に直播栽培の取組が広まっており、令和 4 年度の直播栽培面積は 245.2ha と、前年度から 68.1ha (38.5%) 増加した。

県内の直播栽培の普及状況 (単位：ha)

区 分	H22	H30	R1	R2	R3	R4
乾田直播	1.4	60.2	23.1	26.0	33.0	74.3
V 溝乾田直播	1.4	48.1	8.6	10.0	10.0	13.0
湛水直播	20.7	115.5	162.3	152.2	159.9	169.9
散播	2.4	7.0	7.2	6.4	10.4	9.1
ヘリコプター等	1.4	2.2	2.0	2.9	3.0	3.0
乗用播種機	0.0	0.0	0.0	0	0	0
背負式動散機他	1.0	5.0	5.0	3.5	7.4	6.1
条播	11.3	100.5	147.4	138.0	142.5	158.0
点播	7.0	8.0	7.7	7.8	7.0	2.8
計	22.1	175.7	185.4	178.2	192.9	244.2

#### イ 自動水管理システム

多くの作業が機械化されている水稲栽培において、水管理作業は機械化・省力化が進んでおらず、規模拡大の阻害要因となっている。民間企業や県、国研究機関、農業経営体がコンソーシアムを設立し、水田給水栓を遠隔操作する水管理システムを開発し、実装を進めている。

I C T 水管理システムの導入計画

年度	R3	R4	R5	R6	R7
計画	5ha	100ha (累計 105ha)	95ha (累計 200ha)	100ha (累計 300ha)	50ha (累計 350ha)
実績	5ha	97ha (累計 102ha)	117ha (累計 219ha)	—	—

## ウ 農業用マルチローター

播種や肥料散布、病虫害防除等に利用されており、1 ha の作業を約 15 分程度で実施可能。各メーカーにおいて、生育センシングや自動飛行技術などの開発が進められており、今後のさらなる利用や普及の拡大が期待される。

静岡県内では、大規模農家の多い中遠地域で主に普及が進んでいる。また、ヤマハ発動機及び JA、生産者が連携し、中遠、西部地区でマルチローターを用いた直播や肥料散布、作業性の確認及び生育センシング等の試験を実施している。

### (2) 温暖化に対応した品種導入と栽培技術の開発

平成 23 年度に高温耐性「中程度」で高温を避けて登熟する晩生品種の「にこまる」を奨励品種に採用した。また平成 24 年度には、高温による白未熟粒の発生が多く品質低下が懸念されていた「あさひの夢」に代えて、同熟期中生品種「きぬむすめ」を奨励品種とした。また令和 2 年度には「キヌヒカリ」に代えて高温登熟耐性が「やや強」の早生品種「にじのきらめき」を新たに奨励品種とした。

「にこまる」「きぬむすめ」の評価は年々高まっており、作付面積は、令和 5 年度には 2 品種合わせて 3,877ha と、県内の水稲作付面積の 25.9% を占めている。高温耐性品種の「にじのきらめき」も作付を希望する生産者の声は多く、今後の普及が期待される。

本県における高温耐性品種の作付面積の推移と作付比率

品種名	H26	H27	H28	H29	H30	R 元	R 2	R 3	R 4	R 5
にこまる (ha)	530	824	918	955	973	958	1,137	1,117	1,091	1,149
きぬむすめ (ha)	993	1,537	2,011	2,129	2,266	2,399	2,522	2,637	2,774	2,728
作付比率 (%)	9.1	14.5	18.3	19.7	20.5	21.4	23.8	24.5	25.8	25.9

## 3 水田の有効利用の推進

【目標】	【2020 現状】	【2023 実績】	【2025 目標】
・水田における野菜作付面積 (産地交付金の交付面積)	624ha	→ 823ha	→ 900ha
・実証事業を活用した水田での新たな野菜栽培の取組	-	→ 1 件/年	3 件/年

主食用米の需要が約半世紀にわたり下落している中、麦、大豆や飼料用米などの戦略作物に加え、需要が強い加工・業務用に対応した露地野菜の生産性向上を促進し、水田経営の収益性の向上に向けた取組を進めた。

### ○ 推進事項とその成果

#### (1) 畜産農家と連携した飼料用米、稲発酵粗飼料用稲の生産拡大

飼料用米や稲発酵粗飼料用稲（WC S 用稲）などの非主食用水稲の栽培拡大や流通を促進させるため、水田活用の直接支払交付金の周知を図った。

水田における主食用・非主食用水稲作付面積の推移

(単位：ha)

	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R5/H30
主食用水稲	15,700	15,600	15,400	15,200	15,000	15,000	95.5%
非主食用水稲	1,471	1,522	1,411	1,517	1,598	1,459	99.2
加工用米	104	127	138	140	79	105	100.1
飼料用米	1,139	1,136	1,026	1,075	1,191	1,011	88.8
米粉用米	10	13	1	2	6	8	80.0
WCS用稲	217	239	240	297	317	330	152.1

(資料：農林水産統計、作付計画等の報告等)

(2) 水稲裏作での露地野菜栽培推進

水田の有効活用を進めるため、「水田農業構造改革対策推進事業」、「水田農業経営所得安定対策推進事業」及び「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」を活用した取組を推進する。

ア 水田での露地野菜作付に関する実証試験（水田農業構造改革対策推進事業）

令和5年度は、富士宮地域においてカブの栽培実証試験を行った。今後も関係機関と連携し、課題の洗い出しと解決策の検討を進め、生産拡大及び産地の形成に向けた動きを支援していく。

試験場所	富士宮市
作物	カブ
試験内容	水田からの転換作物として有望な品目及び品種選定

イ 産地交付金を活用した露地野菜生産の拡大（水田農業経営所得安定対策推進事業費）

水田での露地野菜生産を一層進めるため、令和元年度から水田活用の直接支払交付金の産地交付金を活用し、水田での販売を目的とした露地野菜等の高収益作物作付に対する交付金のメニューを設定した。令和2年度からは品目を絞り、交付単価に濃淡を付けることで、更なる取組の拡大を推進している。

産地交付金の県設定内容（高収益作物該当部分）令和5年度

用途名	交付要件 (対象品目)	交付単価 (円/10a)
高収益作物（重点品目） 作付助成	対象品目の作付け（レタス）	15,000
高収益作物（特定品目） 作付助成	対象品目の作付け（タマネギ、ネギ、キャベツ、エダマメ、未成熟とうもろこし、ブロッコリー）	12,500
高収益作物（一般品目） 作付助成	高収益作物の作付け (重点品目、特定品目以外の野菜、果樹、花き等)	7,500
高収益作物新規取組 助成	過去3年以上高収益作物の作付がない水田で、新たに高収益作物の作付に取り組むこと	15,000

※高収益作物には野菜、果樹、花き・花木等が含まれる



## ウ グリーンな栽培体系への転換サポート事業

令和3年5月に「みどりの食料システム戦略」が示され、農業生産における環境負荷軽減と持続的発展に向けた取組への転換（グリーンな栽培体系への転換）を推進することとなった。このため、令和4年度にみどりの食料システム戦略緊急対策交付金を活用して、水田農業に適したグリーンな栽培体系への転換を図るための実証に取り組んだ。

### ①水田温室効果ガス排出削減の栽培体系実証

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業実施主体：静岡県</li> <li>○県内の水稲産地に実証圃場を設け、水田温室効果ガス（メタン）の排出削減に効果的な栽培体系を検証。</li> </ul> <p>&lt;実証圃場&gt; 県内4地域：東部、志太榛原、中遠、西部</p>
実証結果（概要）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○秋耕と稲藁分解促進資材の導入による温室効果ガスの排出抑制効果 稲藁を含む水田土壌中の炭素量を測定した結果、秋耕や稲藁分解促進資材投入で、メタン発生抑制効果が示唆された。 ※秋耕や稲藁分解促進資材投入によって、メタンの発生量がどの程度抑制されるかは、検証できなかった。水田土壌中の炭素量測定時期、測定方法を再検討する必要がある。</li> <li>○ドローンを用いた資材散布による省力化技術の効果 稲藁分解促進資材を、ドローンと、通常の散布（動力噴霧機による散布）を行い、所要時間を比較した結果、ローンで散布した場合、約35%の時間削減となった。</li> </ul>

### ②水田露地野菜（キャベツ）の環境負荷低減・省力化栽培技術の実証

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業実施主体：中遠地域の農家、農協、市で構成する地域協議会</li> <li>○水田露地キャベツの生産地において、ドローンや自動定植機を用いた環境負荷低減並びに省力化栽培技術の実証を行い、効果を検証。</li> </ul>
実証結果（概要）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○畝立て自動施肥機、自動定植機、自走式散水機等を活用した省力化技術効果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・慣行と比較して作業時間が68%削減</li> </ul> </li> <li>○ドローンセンシングによる生育診断による追肥の使用量低減効果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・追肥施用量の削減のためには、適切な生育ステージにおけるドローンセンシングが必要であることを確認。</li> <li>・実証試験では減肥効果は判然としなかった。</li> </ul> </li> </ul>

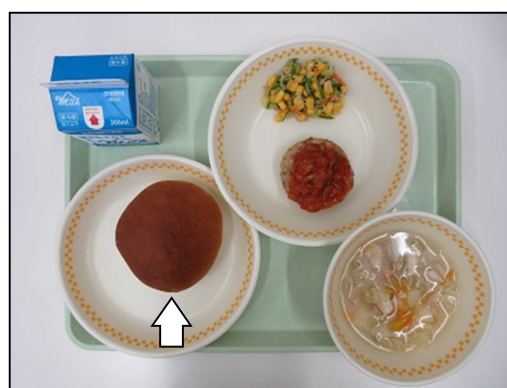
### (3) 小麦、大豆の生産性向上の推進

県内における小麦の生産は、95%が水田で行われており、湿害による生育不良などにより収量の年次変動が大きく、生産量が安定しないことが課題となっている。一方、平成27年度から県学校給食会は国産小麦を100%使用したパン・麺の提供を開始する等、県産小麦への需要は高い。このため、平成28年から「イワイノダイチ」より収量・品質が安定して高い「きぬあかり」を奨励品種に採用した。

平成30年産から「きぬあかり」の一般栽培が始まり、令和元年産からは、全量が「きぬあかり」へ転換した。高品質多収栽培に向け中遠地域を中心に現場の指導を行っていく。

※本県産の「きぬあかり」を40%使用（残りは北海道、滋賀県産の「ゆめちから」）

		R3 産	R4 産	R5 産
作付面積(全国比)		744(0.3%)	749(0.3%)	719(0.3%)
(ha)	うち田	716	717	690
	うち畑	28	32	29
単収(全国比)(kg/10a)		311(63%)	247(57%)	257(54%)
生産量(全国比)(t)		2,310(0.2%)	1,850(0.2%)	1,850(0.2%)
品種構成(集荷実績比率)		きぬあかり 100%	きぬあかり 100%	きぬあかり 100%



県産「きぬあかり」を100%使用したかりんとう（左）と、学校給食で出されるパン（右）  
※かりんとうについては現在販売されている商品とパッケージが異なります。

#### 4 主要農作物種子の生産について

稲、麦類及び大豆等の主要農作物の種子の供給については、「主要農作物種子法を廃止する法律」の制定に伴い、都道府県の義務ではなくなるとともに、同法の施行に伴い発出された農林水産事務次官通知（29政統第1238号 平成29年11月15日）では、稲、麦類及び大豆等主要農作物の種子の生産及び供給に関して、都道府県の義務でないことが示された。

県は平成30年度から通知により採種事業を継続してきたが、令和4年度に、「静岡県民の豊かな暮らしを支える食と農の基本条例」の第10条第2項に基づく要綱及び要領を制定し、引き続き採種事業に取り組む。

#### 5 種苗法の一部改正について

##### (1) 種苗法の主な改正点

種苗法については、令和3年4月1日付けで改正された。その主な改正点は下表のとおりである。自家増殖を行っている稲作農家も多く、今後は、法改正の内容の周知と、育成品種の種子を自家増殖する際の許諾契約について生産者に周知する。

## 種苗法の改正の概要

項目	内容
登録品種の取扱制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>育成者権が及ばない範囲の特例の創設</li> <li>自家増殖の見直し</li> </ul>
登録品種の許諾に基づく増殖	<ul style="list-style-type: none"> <li>「農業者が登録品種の収穫物の一部を次期収穫物の生産のために、自らの経営に限定して使用する種苗に転用する」自家増殖は、登録品種の場合、令和4年4月1日より育成者の許諾が必要になる。</li> </ul>
表示について	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定種苗制度について、指定種苗の販売時の表示のあり方を明確化する。</li> </ul>
出願、審査及び登録	<ul style="list-style-type: none"> <li>審査内容の充実のため、出願者から審査の実費相当額を徴収する。</li> <li>出願料及び登録料の水準を引き下げる。</li> </ul>
育成者権を活用しやすくするための措置	<ul style="list-style-type: none"> <li>侵害立証を容易にする：被疑侵害品種と登録品種の同一性を推定する制度の創設</li> <li>育成者が特性表の補正を請求できる制度の創設</li> <li>農林水産大臣が、育成者権が及ぶか否かを判断する制度（裁判の証拠としての活用等）</li> </ul>

### (2) 指定種苗の生産等に関する基準の一部改正について

今回の種苗法の一部改正を踏まえ、「指定種苗の生産等に関する基準」の内容においても、優良で純度の高い種子の供給が求められた。そのため、主要農作物である、稲、麦類及び大豆の種子生産では、原種や原原種を用いることが規定された。

## 6 今後の方向

- ① ビジネス経営体を育成するため、農地中間管理事業などを活用し、担い手に農地の面的集積を一層進めるとともに、技術や経営面での課題解決を図る。
- ② 経営所得安定対策等を活用し、飼料用米の導入、水稻裏作での野菜栽培への取組等を推進するとともに、水田農家の経営の安定化を図っていく。
- ③ 麦については、「きぬあかり」への転換を、令和元年度までに終了した。大豆とともに、高品質・高収量を実現する栽培法を確立するために、「麦・大豆栽培マニュアル」を活用し、基本技術の徹底を図る。
- ④ 改正種苗法に対応した取組を、静岡県米麦協会と連携し進める。また、農業者にとっては、育成品種の自家増殖に育成者の許諾が必要となるので、自家採種の許諾契約について、県米麦協会とともに生産者へ周知する。

## 第2 静岡県水田農業の現状

### 1 水田農業の状況 (1) 米穀等生産状況

		H30	R元	R2	R3	R4	R5	
耕地 利用 状況	耕地面積 (ha)	65,300	64,100	62,800	61,500	60,400	59,400	
	水田面積 (ha)	22,200	21,900	21,700	21,500	21,400	21,300	
	水田の作付延べ面積 (ha)	20,900	21,500	21,400	21,200	20,100	-	
	水田の耕地利用率	94.1%	93.9%	94.3%	94.2%	93.9%	-	
米穀等 生産 状況	水 稲	水稲作付面積 (子実用) (ha)	15,800	15,700	15,500	15,300	15,000	15,100
		主食用水稲作付面積 (ha)	15,700	15,600	15,400	15,200	15,000	15,000
		水稲収穫量 (子実用) (t)	79,900	81,200	74,100	77,400	76,400	78,400
		主食用水稲収穫量 (t)	79,400	80,700	73,600	76,900	76,400	77,900
		10a当たり収量 (kg)	506	517	478	506	509	519
		作況指数	97	99	92	97	98	100
	小 麦	小麦作付面積 (ha)	758	791	727	744	749	719
		うち田 (ha)	721	753	699	715	717	690
		うち畑 (ha)	37	38	28	29	32	29
		小麦収穫量 (t)	1,720	2,370	1,640	2,310	1,850	1,850
		10a当たり収量 (kg)	227	300	226	311	247	257
	大 豆	大豆作付面積 (ha)	260	251	223	244	203	206
		うち田 (ha)	189	188	163	198	157	160
		うち畑 (ha)	71	63	60	46	46	46
		大豆収穫量 (t)	179	191	169	200	146	138
		10a当たり収量 (kg)	69	76	76	82	72	67
	ビ ジ ネ ス 経 営 体	水稲ビジネス経営体数	15	17	18	18	-	-
		同水稲作付面積 (ha)	822	930	1,094	1,220	-	-
		同面積シェア	5.2%	5.9%	7.1%	8.0%	-	-
		同水田作付延べ面積 (ha)	1,191	1,191	1,350	1,481	-	-
同作付延べ面積シェア		5.7%	5.8%	6.7%	7.30%	-	-	
産 出 額	農業産出額 (億円)	2,120	1,979	1,883	2,084	2,132	-	
	米産出額 (億円)	194	198	172	162	168	-	
	米産出額シェア	9.2%	10.0%	9.1%	7.8%	7.9%	-	

(資料：農林水産統計、農業ビジネス課)

注1) 作付延べ面積には野菜、飼肥料作物、その他作物等の作付面積を含む

2) 作付面積および収穫量は子実用（青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除く）

3) 小麦及び大豆の収穫量と10a当たり単収は田畑合計の値

## (2) 水稲生産状況

### ア 水稲生産状況の推移

年産	静岡県								全国			
	作付面積 (子実用) ha	単収 kg/10a	収穫量 (子実用) t	作況 指数	平年 単収 kg/10a	作柄表示地帯別作況指数			作付面積 (子実用) 千ha	単収 kg/10a	収穫量 (子実用) 千t	作況 指数
						東部	中部	西部				
H 元	22,600	470	106,200	103	455	105	105	102	2,076	496	10,297	101
H 2	22,300	460	102,600	101	457	102	100	101	2,055	509	10,463	103
H 3	22,000	469	103,200	102	461	102	101	102	2,033	470	9,565	95
H 4	22,200	506	112,300	109	463	106	113	110	2,092	504	10,546	101
H 5	22,200	459	101,900	98	467	94	103	99	2,127	367	7,811	74
H 6	23,100	530	122,400	113	467	113	116	112	2,200	544	11,961	109
H 7	22,200	510	113,200	108	472	106	111	108	2,106	509	10,724	102
H 8	20,900	516	107,800	108	477	107	110	108	1,967	525	10,328	105
H 9	20,400	514	104,900	106	486	106	109	104	1,944	515	10,004	102
H 10	19,300	495	95,500	100	496	97	102	100	1,793	499	8,939	98
H 11	19,300	531	102,500	105	504	102	106	107	1,780	515	9,159	101
H 12	19,100	529	101,000	103	515	103	102	103	1,763	537	9,472	104
H 13	18,700	525	98,200	102	515	101	101	102	1,700	532	9,048	103
H 14	18,600	517	96,200	99	520	99	100	100	1,683	527	8,876	101
H 15	18,400	482	88,700	93	521	93	93	93	1,660	469	7,779	90
H 16	18,500	534	98,800	102	521	105	102	102	1,697	514	8,721	98
H 17	18,500	516	95,500	99	523	99	99	98	1,702	532	9,062	101
H 18	18,400	502	92,400	96	523	94	96	97	1,684	507	8,546	96
H 19	18,300	509	93,100	97	523	99	98	97	1,669	522	8,705	99
H 20	18,000	519	93,400	99	523	99	99	100	1,624	543	8,815	102
H 21	17,700	503	89,000	97	521	97	95	97	1,621	522	8,466	98
H 22	17,500	512	89,600	98	521	98	97	99	1,625	522	8,478	98
H 23	17,200	539	92,700	103	521	102	102	105	1,574	533	8,397	101
H 24	17,100	525	89,800	101	521	100		101	1,579	540	8,519	102
H 25	17,100	521	89,100	100	521	101		99	1,597	539	8,603	102
H 26	16,800	514	86,400	99	521	98		99	1,573	536	8,439	101
H 27	16,300	503	82,000	96	513	97		96	1,505	531	7,986	100
H 28	16,000	525	84,000	101	513	99		103	1,479	544	8,044	103
H 29	15,700	515	80,900	99	513	97		101	1,465	534	7,822	100
H 30	15,800	506	79,900	97	513	95		99	1,470	529	7,780	98
R 元	15,700	517	81,200	99	513	95		102	1,469	528	7,762	99
R 2	15,500	478	74,100	92	511	90		94	1,462	531	7,763	99
R 3	15,300	506	77,400	97	511	97		97	1,403	539	7,563	101
R 4	15,000	509	76,400	98	511	98			1,355	536	7,269	100
R 5	15,100	519	78,400	100	511	100			1,344	533	7,165	101

(資料：農林水産統計)

注) 平成26年産までの作況指数及び平年単収は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出した数値。平成27年産以降は、農家等が実際に使用しているふるい目幅で算出した数値(静岡県は1.80mm)。

イ 農林事務所管内別の水稻生産状況

		H12年	H17年	H22年	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
賀茂	作付面積 (ha)	344	314	216	166	164	159	156	155	149	144	133	132
	10a当たり収量(kg)	497	474	493	495	499	495	478	468	446	481	464	492
	収 穫 量 ( t )	1,708	1,487	1,064	821	819	787	746	725	665	693	641	649
東部	作付面積 (ha)	3,426	3,207	3,122	3,010	2,970	2,927	2,905	2,886	2,848	2,832	2,813	2,784
	10a当たり収量(kg)	546	527	516	514	521	504	490	477	448	500	507	508
	収 穫 量 ( t )	18,692	16,901	16,117	15,462	15,464	14,743	14,221	13,768	12,764	14,155	14,003	14,154
富士	作付面積 (ha)	1,380	1,341	1,317	1,243	1,222	1,207	1,198	1,177	1,143	1,094	1,083	1,070
	10a当たり収量(kg)	498	499	494	499	503	481	480	478	466	484	486	496
	収 穫 量 ( t )	6,870	6,691	6,510	6,200	6,150	5,810	5,750	5,630	5,330	5,300	5,260	5,310
中部	作付面積 (ha)	542	505	431	379	374	367	356	326	310	299	297	295
	10a当たり収量(kg)	509	503	487	493	508	504	497	515	471	504	502	519
	収 穫 量 ( t )	2,760	2,541	2,100	1,870	1,900	1,850	1,770	1,680	1,460	1,510	1,490	1,530
志太 榛原	作付面積 (ha)	3,380	3,332	3,155	3,011	2,966	2,934	2,917	2,897	2,835	2,774	2,774	2,708
	10a当たり収量(kg)	538	530	515	511	527	523	509	537	487	521	516	529
	収 穫 量 ( t )	18,200	17,660	16,264	15,393	15,644	15,344	14,842	15,564	13,800	14,463	14,353	14,325
中遠	作付面積 (ha)	7,200	7,161	6,680	6,127	5,958	5,877	5,970	5,986	6,006	5,954	5,986	5,945
	10a当たり収量(kg)	527	512	508	494	527	516	509	532	489	507	514	526
	収 穫 量 ( t )	38,200	36,679	33,950	30,250	31,390	30,340	30,400	31,820	29,380	30,230	29,700	31,280
西部	作付面積 (ha)	2,840	2,644	2,552	2,360	2,328	2,274	2,293	2,242	2,202	2,178	2,171	2,163
	10a当たり収量(kg)	526	511	529	510	542	540	530	529	485	505	522	515
	収 穫 量 ( t )	14,800	13,505	13,510	12,040	12,610	12,280	12,160	11,860	10,670	11,000	11,170	11,140
県計	作付面積 (ha)	19,100	18,500	17,500	16,300	16,000	15,700	15,800	15,700	15,500	15,300	15,000	15,100
	10a当たり収量(kg)	529	516	512	503	525	515	506	517	478	506	509	519
	収 穫 量 ( t )	101,000	95,500	89,600	82,000	84,000	80,900	79,900	81,200	74,100	77,400	76,400	78,400

(資料:農林水産統計)

- 注1) 農林事務所別の10a当たり収量は、管内市町総収穫量÷管内市町総作付面積にて算出  
 2) 作付面積や収穫量はラウンド処理した数値を積み上げているものがある  
 3) ラウンドの関係で合計が一致しない場合がある  
 4) 農林事務所別の数値は農芸振興課にて算出

## ウ 市町別の水稲生産状況

市町名	作付面積(ha)			10a当たり収量(kg)			収穫量(t)		
	R 3年	R 4年	R 5年	R 3年	R 4年	R 5年	R 3年	R 4年	R 5年
下田市	44	43	43	484	448	488	213	210	210
東伊豆町	0	0	0	-	-	-	0	0	0
河津町	6	7	7	467	465	475	28	33	33
南伊豆町	32	30	29	470	476	493	150	143	143
松崎町	57	48	48	490	486	499	279	233	240
西伊豆町	5	5	5	459	447	455	23	22	23
熱海市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三島市	180	179	173	531	526	538	956	942	931
伊東市	13	13	13	480	486	487	62	63	63
伊豆市	402	402	402	489	488	499	1,970	1,960	2,010
伊豆の国市	354	343	338	532	527	540	1,880	1,810	1,830
函南町	162	157	154	521	522	527	844	820	812
沼津市	345	349	349	513	512	525	1,770	1,790	1,830
御殿場市	812	807	798	483	480	489	3,920	3,870	3,900
裾野市	131	139	136	516	520	526	676	723	715
清水町	41	39	39	524	521	534	215	203	208
長泉町	31	29	29	521	525	533	162	152	155
小山町	361	356	353	470	469	481	1,700	1,670	1,700
富士宮市	586	584	578	474	478	488	2,780	2,790	2,820
富士市	508	499	492	495	494	505	2,520	2,470	2,490
静岡市	299	297	295	504	502	517	1,510	1,490	1,530
島田市	457	455	442	516	517	528	2,360	2,350	2,330
焼津市	880	874	850	519	517	521	4,570	4,520	4,430
藤枝市	690	684	677	520	523	532	3,590	3,580	3,600
牧之原市	494	489	485	528	526	534	2,610	2,570	2,590
吉田町	244	245	245	530	528	544	1,290	1,290	1,330
川根本町	9	9	9	480	482	495	43	43	45
掛川市	1,390	1,380	1,370	515	518	534	7,150	7,120	7,340
御前崎市	270	268	267	518	522	523	1,400	1,400	1,400
菊川市	730	708	702	520	524	529	3,800	3,710	3,710
森町	394	386	406	504	501	512	1,990	1,930	2,080
磐田市	1,800	1,770	1,860	502	511	527	9,040	9,040	9,820
袋井市	1,370	1,290	1,340	500	505	517	6,850	6,500	6,930
浜松市	1,950	1,940	1,930	505	513	514	9,820	9,940	9,900
湖西市	228	231	233	519	531	532	1,180	1,230	1,240
県計	15,300	15,000	15,100	506	509	519	77,400	76,400	78,400

注1)ラウンドの関係で合計が合致しない場合がある

(資料:農林水産統計)



### (3) 水稻品種構成

#### ア 水稻品種別作付面積

	令和元年		令和2年		令和3年		令和4年		令和5年	
	作付 面積 ha	作付 比率 %	作付 面積 ha	作付 比率 %	作付 面積 ha	作付 比率 %	作付 面積 ha	作付 比率 %	作付 面積 ha	作付 比率 %
コシヒカリ	6,986	44.5	6,639	43.4	6,257	40.9	6,432	42.9	6,303	42.0
きぬむすめ	2,399	15.3	2,522	16.5	2,637	17.2	2,774	18.5	2,728	18.2
あいちのかおりSBL	2,155	13.7	1,881	12.3	1,647	10.8	1,481	9.9	1,413	9.4
にこまる	958	6.1	1,137	7.4	1,117	7.3	1,091	7.3	1,149	7.7
にじのきらめき	-	-	-	-	60	0.4	364	2.4	809	5.4
キヌヒカリ	1,174	7.5	1,070	7.0	1,032	6.7	821	5.5	568	3.8
ひとめぼれ	581	3.7	571	3.7	542	3.5	528	3.5	485	3.2
歓喜の風	-	-	224	1.5	308	2.0	189	1.3	143	1.0
ヒノヒカリ	192	1.2	183	1.2	178	1.2	178	1.2	190	1.3
ミルキークイーン	91	0.6	93	0.6	97	0.6	122	0.8	119	0.8
あきたこまち	34	0.2	35	0.2	31	0.2	33	0.2	9	0.1
なつしずか	27	0.2	22	0.1	22	0.1	23	0.2	19	0.1
山田錦	112	0.7	82	0.5	76	0.5	103	0.7	102	0.7
誉富士*	65	0.4	73	0.5	66	0.4	71	0.5	69	0.5
五百万石	8	0.1	8	0.1	9	0.1	7	0.0	7	0.04
その他うるち	269	1.7	282	1.8	659	4.3	278	1.9	274	1.8
うるち品種計	15,052		14,822		14,739		14,494		14,384	
葵美人	240	1.5	229	1.5	220	1.4	208	1.4	206	1.4
峰の雪もち	260	1.7	215	1.4	208	1.4	205	1.4	320	2.1
ヒヨクモチ	148	0.9	135	0.9	133	0.9	93	0.6	90	0.6
もち品種計	648		579		561		506		616	
子実用作付面積	15,700		15,400		15,300		15,000		15,000	

注1)太字は県奨励品種

(資料:農林水産省・JA静岡経済連のデータから農芸振興課が推計)

2) 作付面積は種子供給量及び農産物検査数量等から換算した推計値

3) 端数切り上げや使用データが複数あることにより合計が一致しない場合がある

※令和5年は令和誉富士

イ 農林事務所管内別の水稲品種別作付面積

令和5年産

	賀茂		東部		富士		中部		志太榛原		中遠		西部	
	面積 ha	比率 %	面積 ha	比率 %	面積 ha	比率 %	面積 ha	比率 %	面積 ha	比率 %	面積 ha	比率 %	面積 ha	比率 %
コシヒカリ	12	7.9	1,549	54.4	660	57.7	52	16.9	767	27.0	3,244	54.0	524	23.8
きぬむすめ	59	39.4	267	9.4	215	18.8	79	25.6	717	25.3	1,259	21.0	479	21.8
あいちのかおりSBL	19	12.5	318	11.2	15	1.3	36	11.7	585	20.6	106	1.8	539	24.5
にこまる	6	4.0	211	7.4	1	0.1	18	5.7	90	3.2	616	10.3	309	14.1
キヌヒカリ	35	23.4	75	2.6	67	5.8	39	12.6	241	8.5	62	1.0	151	6.9
ひとめぼれ	8	5.5	130	4.6	127	11.1	33	10.8	215	7.6	31	0.5	9	0.4
歓喜の風		0.0	15	0.5		0.0	1	0.3	11	0.4	103	1.7	20	0.9
ヒノヒカリ		0.0	84	2.9		0.0	17	5.4	1	0.0	62	1.0	29	1.3
ミルクQueen		0.0	17	0.6	17	1.5	12	4.0	32	1.1	34	0.6	23	1.0
あきたこまち		0.0	1	0.0		0.0	1	0.3	5	0.2	1	0.0	2	0.1
なつしずか		0.0		0.0	0	0.0	1	0.2	2	0.1	15	0.2	1	0.0
にじのきらめき	0	0.1	0	0.0	2	0.2	0	0.0	2	0.1	12	0.2	1	0.0
山田錦		0.0	6	0.2	1	0.1	2	0.7	16	0.6	40	0.7	36	1.7
令和誉富士		0.0	1	0.0	4	0.4		0.0	58	2.1	8	0.1	7	0.3
五百万石		0.0		0.0		0.0		0.0	7	0.3	0	0.0		0.0
その他うるち		0.0		0.0	4	0.3	1	0.3	7	0.2	270	4.5	8	0.3
うるち計	138	92.8	2,674	93.9	1,113	97.2	293	94.4	2,756	97.1	5,865	97.7	2,137	97.3
葵美人	6	4.1	44	1.5	16	1.4	12	3.9	63	2.2	40	0.7	53	2.4
峰の雪もち	5	3.0	125	4.4	16	1.4	4	1.2	14	0.5	21	0.3	3	0.2
ヒヨクモチ		0.0	5	0.2		0.0	2	0.5	6	0.2	78	1.3	4	0.2
もち計	11	7.2	174	6.1	32	2.8	17	5.6	83	2.9	139	2.3	60	2.7
農林別計	149		2,848		1,145		310		2,839		6,004		2,197	

注1) 作付面積は種子供給量等から換算した推計値

(資料:農林水産省、静岡県経済連のデータから農芸振興課が推計)

注2) 端数切り上げにより合計が一致しない場合がある

#### (4) 水稻被害状況

(単位:ha、t、%)

被害 年産	水稻 作付面積	気象災害								
		面積			高温障害			日照不足		
		面積	被害量	被害面積比率	面積	被害量	被害面積比率	面積	被害量	被害面積比率
H18年	18,400	15,700	5,190	85.3	-	-	-	14,200	4,940	77.2
H19年	18,300	19,500	4,380	106.6	7,110	1,430	38.9	8,350	1,810	45.6
H20年	18,000	9,440	1,840	52.4	4,330	655	24.1	1,960	410	10.9
H21年	17,700	19,400	6,400	109.6	470	30	2.7	12,200	4,390	68.9
H22年	17,500	18,300	4,330	104.6	14,200	3,460	81.1	-	-	-
H23年	17,200	8,200	1,610	47.7	735	87	4.3	-	-	-
H24年	17,100	17,200	1,890	100.6	3,920	657	22.9	8,980	400	52.5
H25年	17,100	28,100	2,460	164.3	12,500	811	73.1	10,000	255	58.5
H26年	16,800	21,100	2,930	125.6	4,310	305	25.7	6,370	983	37.9
H27年	16,300	26,900	5,290	165.0	6,470	685	39.7	12,100	2,970	74.2
H28年	16,000	5,300	1,420	33.1	-	-	-	4,230	1,200	26.4
H29年	15,700	8,740	3,020	55.7	4,240	530	27.0	4,500	2,490	28.7
H30年	15,800	13,220	4,110	83.7	3,850	1,480	24.4	9,370	2,630	59.3
R元年	15,700	18,200	3,670	115.9	9,520	1,510	60.6	7,200	1,860	45.9
R2年	15,500	22,686	5,439	146.4	14,900	2,340	96.1	7,640	3,050	49.3
R3年	15,300	8,540	3,087	55.8	1,950	407	12.7	6,590	2,680	43.1
R4年	15,000	19,268	2,640	128.5	10,200	780	68.0	8,900	1,820	59.3
R5年	15,100	20,530	2,158	136.0	13,900	1,610	92.1	6,630	548	43.9

被害 年産	水稻 作付面積	病害			虫害			カメムシ		
		面積	被害量	被害面積比率	面積	被害量	被害面積比率	面積	被害量	被害面積比率
		H18年	18,400	7,400	1,660	40.2	5,740	735	31.2	1,000
H19年	18,300	9,110	1,330	49.8	6,240	1,080	34.1	622	80	3.4
H20年	18,000	9,320	1,450	51.8	6,790	1,040	37.7	1,280	130	7.1
H21年	17,700	8,230	1,910	46.5	7,670	1,170	43.3	1,090	120	6.2
H22年	17,500	9,570	1,280	54.7	14,300	1,820	81.7	1,990	184	11.4
H23年	17,200	6,960	993	40.5	7,740	1,030	45.0	1,450	135	8.4
H24年	17,100	7,540	969	44.1	10,200	1,150	59.6	3,060	351	17.9
H25年	17,100	9,420	1,510	55.1	10,300	1,480	60.2	3,010	359	17.6
H26年	16,800	14,200	1,650	84.5	11,800	1,140	70.2	4,480	457	26.7
H27年	16,300	12,800	1,490	78.5	10,600	994	65.0	3,290	299	20.2
H28年	16,000	9,820	1,300	61.4	9,680	1,160	60.5	3,130	470	19.6
H29年	15,700	3,930	576	25.0	5,330	470	33.9	4,020	305	25.6
H30年	15,800	3,140	576	19.9	5,210	494	33.0	3,950	329	25.0
R元年	15,700	3,090	653	19.7	6,110	1,330	38.9	2,370	310	15.1
R2年	15,500	2,970	689	19.2	7,740	4,528	49.9	3,630	428	23.4
R3年	15,300	5,120	1,220	33.5	4,490	578	29.3	3,480	428	22.7
R4年	15,000	4,590	540	30.6	4,667	544	31.1	4,080	384	27.2
R5年	15,100	2,780	330	18.4	4,780	670	31.7	4,310	580	28.5

(資料:農林水産統計)

- 注1)被害は、気象的、生物的、その他異常な環境によって、農作物に損傷を生じ、「基準収量」より減少した状態をいう。  
 2)被害面積は同一ほ場で数回被害にあえば、蓄積した面積となるため、被害面積が水稻作付面積を上回る場合がある。  
 3)被害面積比率は、「被害面積÷水稻作付面積」にて算出している。

(5) 県内農業における稲作  
ア 農業産出額

(単位：億円)

	H7年	H12年	H17年	H22年	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年
農業産出額計	3,070	2,800	2,516	2,123	2,204	2,266	2,263	2,120	1,979	1,887	2,084	2,132
米	320	248	225	175	183	196	198	194	198	172	162	168
麦類	2	5	3	1	0	0	0	1	x	x	x	x
豆類	4	4	2	1	1	1	1	1	1	1	0	0
いも類	66	59	48	44	46	40	31	29	36	43	40	32
野菜	802	729	633	586	637	700	727	643	607	582	591	624
果実	319	310	276	294	304	331	302	298	234	254	282	299
花き	243	231	197	177	177	177	166	157	164	153	168	174
工芸作物	567	556	479	305	199	201	211	188	149	119	148	132
その他	53	42	45	31	25	24	24	24	x	x	x	x
畜産	509	431	429	375	522	490	486	464	461	451	544	543
加工農産物	184	185	179	135	110	105	116	121	104	86	122	112
産出額に占める米の比率(%)	10.4	8.9	8.9	8.2	8.3	8.6	8.7	9.2	10.0	9.1	7.8	7.9

(資料：農林水産統計)

- 注 1) その他：種苗・苗木、養蚕等 工芸作物：茶(生葉)、葉たばこ等 加工農産物：荒茶、切干だいこん、切干いも、干柿等  
2) ラウンドの関係で合計が合わない場合がある

イ 相対取引価格

(出荷業者・通年平均)(主食用1等、円/玄米60kg)

産地	品種銘柄	平成30年産	令和元年産	令和2年産	令和3年産	令和4年産	令和5年産
静岡	コシヒカリ	15,971	16,207	15,531	14,424	14,838	15,438
静岡	きぬむすめ	14,951	15,229	14,776	12,342	12,846	14,183
全銘柄平均		15,686	15,716	14,529	12,804	13,844	15,276

(資料：農林水産省)

- 注 1) 出荷業者等と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格(運賃、包装代、消費税を含む1等米の価格)を加重平均した価格  
2) 各年産における、出回りから翌年10月までの平均価格(令和5年産は6年2月までの平均価格)。

ウ 販売農家に占める稲作付農家の比率

(単位：戸、%)

	総販売農家数 A	販売目的で稲を作付した農家数 B	B/A
平成2年	102,966	67,079	65.1
平成7年	65,152	42,593	65.4
平成12年	56,455	23,019	40.8
平成17年	45,954	18,060	39.3
平成22年	38,969	16,409	42.1
平成27年	31,864	14,626	45.9
令和2年度	24,426	9,683	39.6

(資料：農林業センサス)

## (6) 経営規模

### ア 田の面積規模別経営体数（過去1年間に稲を作った田）

ha	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
0.3ha未満	20,501	18,142	12,699	9,642	6,713	5,086
0.3～0.5	12,673	10,024	8,091	6,777	5,504	4,840
0.5～1.0	7,408	5,317	4,882	4,391	3,729	3,592
1.0～2.0	1,574	1,182	1,195	1,208	1,155	1,212
2.0～3.0	222	210	237	262	270	293
3.0～5.0	130	136	146	203	191	249
5.0～10.0	94	123	129	161	171	217
10.0～15.0	29	27	57	59	65	88
15.0ha以上	31	45	53	88	102	176
計	42,662	35,206	27,489	22,791	17,900	15,753

(資料:2020農林業センサス)

### イ 田の経営耕地面積規模別経営体数（農林別）

経営耕地面積 ha	賀茂		東部		富士		中部		志太榛原		中遠		西部		県	
	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%
0.3ha未満	92	52.0	738	20.6	186	20.3	374	57.3	713	24.2	562	20.6	1,073	49.7	3,738	28.4
0.3～0.5	44	24.9	1,209	33.7	340	37.1	156	23.9	1,062	36.0	733	26.8	602	27.9	4,146	31.5
0.5～1.0	27	15.3	1,081	30.1	249	27.2	80	12.3	780	26.5	745	27.3	293	13.6	3,255	24.7
1.0～2.0	6	3.4	393	11.0	80	8.7	25	3.8	238	8.1	273	10.0	94	4.4	1,109	8.4
2.0～3.0	4	2.3	81	2.3	21	2.3	4	0.6	50	1.7	91	3.3	23	1.1	274	2.1
3.0～5.0	3	1.7	46	1.3	25	2.7	6	0.9	46	1.6	78	2.9	21	1.0	225	1.7
5.0～10.0	0	0.0	31	0.9	11	1.2	3	0.5	38	1.3	94	3.4	21	1.0	198	1.5
10.0～15.0	1	0.6	4	0.1	5	0.5	2	0.3	8	0.3	44	1.6	11	0.5	75	0.6
15.0ha以上	0	0.0	4	0.1	0	0.0	3	0.5	12	0.4	112	4.1	22	1.0	153	1.2
計	177		3,587		917		653		2,947		2,732		2,160		13,173	

(資料:2020農林業センサス)

### ウ 田の経営耕地面積規模別面積（農林別）

(単位:ha)

経営耕地面積 ha	賀茂		東部		富士		中部		志太榛原		中遠		西部		県	
	面積	%	面積	%	面積	%	面積	%	面積	%	面積	%	面積	%	面積	%
0.3ha未満	14	14.6	143	5.7	34	4.9	57	15.4	126	5.4	103	1.5	180	10.6	657	4.6
0.3～0.5	15	15.6	445	17.7	125	17.9	55	14.8	393	17.0	273	4.1	219	12.9	1,525	10.6
0.5～1.0	17	17.7	719	28.6	161	23.1	52	14.0	509	22.0	498	7.4	183	10.8	2,139	14.8
1.0～2.0	8	8.3	503	20.0	103	14.8	34	9.2	302	13.0	346	5.1	120	7.1	1,416	9.8
2.0～3.0	8	8.3	185	7.4	49	7.0	9	2.4	115	5.0	213	3.2	51	3.0	630	4.4
3.0～5.0	12	12.5	173	6.9	94	13.5	21	5.7	170	7.3	295	4.4	73	4.3	838	5.8
5.0～10.0	9	9.4	215	8.5	68	9.8	21	5.7	246	10.6	671	10.0	146	8.6	1,376	9.5
10.0～15.0	13	13.5	44	1.7	63	9.0	26	7.0	96	4.1	526	7.8	122	7.2	890	6.2
15.0ha以上	0	0.0	88	3.5	0	0.0	96	25.9	359	15.5	3,801	56.5	600	35.4	4,944	34.3
計	96		2,515		697		371		2,316		6,726		1,694		14,415	

(資料:2020農林業センサス)

注) ラウンドの関係で合計が合わない場合がある

エ 田の経営耕地面積規模別経営体数（市町別）

市区町村名	0.3ha未満		0.3～0.5		0.5～1.0		1.0～1.5		1.5～2.0		2.0～2.5		2.5～3.0		3.0～4.0		4.0～5.0		5.0～7.5		7.5～10.0		10.0～15.0		15.0ha以上		田のある経営体数	総経営体数	田のある経営体数/総経営体数%	
	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%				
県計	3,738	28.4	4,146	31.5	3,255	24.7	847	6.4	262	2.0	186	1.4	88	0.7	132	1.0	93	0.7	132	1.0	65	0.5	75	0.6	153	1.2	13,173	25,938	50.8	
下田市	15	34.9	14	32.6	10	23.3	3	7.0									1										43	77	55.8	
東伊豆町	2	66.7	1			0.0		0.0																			3	175	1.7	
河津町	37	78.7	7	14.9	2	4.3		0.0			1																47	158	29.8	
南伊豆町	13	43.3	4	13.3	9	30.0		0.0	1	3.3	1	3.3			1								1	3.3			30	104	28.9	
松崎町	24	47.1	17	33.3	5	9.8	1		1	2.0	2	3.9					1	2.0									51	73	69.9	
西伊豆町	1	33.3	1	33.3	1	33.3																					3	24	12.5	
熱海市																												0	0	0
三島市	72	24.6	96	32.8	94	32.1	18	6.1	5	1.7	2					0.0	2		2	0.7	1	0.3	1		1	0.3		293	483	60.7
伊東市	4	23.5	7	41.2	6	35.3																					17	254	6.7	
伊豆市	137	26.9	234	46.0	116	22.8	14	2.8	3	0.6			2	0.4	1	0.2				0.0	2	0.4					509	583	87.3	
伊豆の国市	111	21.6	195	38.0	151	29.4	43	8.4	6	1.2	2	0.4	1	0.2	1		1	0.2			1			0.0	1	0.2	513	611	84.0	
函南町	46	21.5	82	38.3	59	27.6	16	7.5	4	1.9	2	0.9			1						2	0.9			0.0	2	0.9	214	281	76.2
沼津市	83	24.9	86	25.8	89	26.7	30	9.0	14	4.2	10	3.0	3	0.9	9	2.7		5	1.5	5	1.5			0.0			334	886	37.7	
裾野市	71	34.3	82	39.6	44	21.3	7	3.4		0.0	1	0.5			1		1		1								207	311	66.6	
御殿場市	104	10.9	283	29.7	343	36.0	119	12.5	40	4.2	30	3.1	7	0.7	7	0.7	7	0.7	8	0.8	3	0.3	3	0.3		0.0	954	992	96.2	
清水町	20	29.9	23	34.3	21	31.3	2	3.0							1	1.5											67	77	87.0	
小山町	29	7.4	105	26.8	148	37.8	53	13.5	19	4.9	11	2.8	10	2.6	6	1.5	4	1.0	6	1.5	1	0.3			0.0		392	399	98.3	
長泉町	61	70.1	16	18.4	10	11.5																					87	136	64.0	
富士宮市	90	16.9	218	40.8	167	31.3	39	7.3	7	1.3		0.0	3		4	0.8	3	0.6	3	0.6				0.0			534	868	61.5	
富士市	96	25.1	122	31.9	82	21.4	22	5.7	12	3.1	11	2.9	7	1.8	10	2.6	8	2.1	8	2.1		0.0	5	1.3			383	858	44.6	
静岡市	374	57.3	156	23.9	80	12.3	16	2.5	9	1.4	3	0.5	1	0.2	4	0.6	2	0.3	3	0.5		0.0	2	0.3	3	0.5	653	3,035	21.5	
島田市	228	31.6	243	33.7	176	24.4	40	5.6	16	2.2	6	0.8	3	0.4	3	0.4	1		2		1		1		1		721	1,371	52.6	
焼津市	96	12.3	349	44.7	243	31.1	34	4.4	8	1.0	5	0.6	2	0.3	10	1.3	6	0.8	10	1.3	6	0.8	4	0.5	8	1.0	781	841	92.9	
藤枝市	213	26.6	275	34.4	217	27.1	50	6.3	15	1.9	7	0.9	6	0.8	4	0.5	3	0.4	5	0.6	2	0.3	2		1	0.1	800	1,068	74.9	
牧之原市	165	49.3	143	42.7	104	31.0	44	13.1	8	2.4	10	3.0	4	1.2	7	2.1	5	1.5	6	1.8	1		1	0.3	2	0.6	335	1,115	30.0	
吉田町	4	3.1	47	35.9	38	29.0	17	13.0	6	4.6	6	4.6	1	0.8	4	3.1	3	2.3	3	2.3	2	1.5					131	139	94.2	
川根本町	7	50.0	5	35.7	2	14.3																					14	291	4.8	
御前崎市	27	19.9	46	33.8	29	21.3	10	7.4	2	1.5	5	3.7	1	0.7	3	2.2		0.0	3	2.2		0.0	3	2.2	7	5.2	136	460	29.6	
掛川市	174	22.0	245	30.9	209	26.4	52	6.6	17	2.2	11	1.4	7	0.9	13	1.6	11	1.4	11	1.4	11	1.4	14	1.8	16	2.0	792	1,439	55.0	
菊川市	185	28.3	201	30.7	179	27.4	25	3.8	13	2.0	10	1.5	4	0.6	6	0.9	3	0.5	7	1.1	3	0.5	3	0.5	14	2.1	654	947	69.1	
磐田市	96	18.5	115	22.1	151	29.0	52	10.0	11	2.1	10	1.9	5	1.0	7	1.4	6	1.2	11	2.1	10	1.9	8	1.5	38	7.3	520	1,041	50.0	
袋井市	56	13.9	78	19.3	109	27.0	52	12.9	11	2.7	15	3.7	8	2.0	9	2.2	7	1.7	13	3.2	5	1.2	8	2.0	33	8.2	404	663	60.9	
森町	24	10.6	48	21.2	68	30.1	20	8.9	8	3.5	7	3.1	8	3.5	6	2.7	7	3.1	12	5.3	6	2.7	8	3.5	4	1.8	226	307	73.6	
浜松市	974	50.5	538	27.9	257	13.3	57	3.0	21	1.1	11	0.6	4	0.2	12	0.6	6	0.3	9	0.5	7	0.4	11	0.6	20	1.0	1,927	5,304	36.3	
湖西市	99	42.5	64	27.5	36	15.5	11	4.7	5	2.2	7	3.0	1	0.4	3	1.3		0.0	4	1.7	1			0.0	2	0.9	233	455	51.2	

(資料:2020農林業センサス)

## (7) 土地条件

### ア 耕地面積及び拡張・かい廃面積

(単位:ha,%)

		H2年	H7年	H12年	H17年	H22年	H27年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
耕地面積(A)		89,400	83,200	78,500	75,100	70,800	67,900	66,400	65,300	64,100	62,800	61,500	60,400	59,400
水田面積(B)		30,600	28,600	26,700	25,000	23,400	22,700	22,400	22,200	21,900	21,700	21,500	21,400	21,300
水田比率(B)/(A)		34.2	34.4	34.0	33.3	33.1	33.4	33.7	34.0	34.2	34.6	35.0	35.4	35.9
水	拡張													
	開墾	0	0	-	-	7	68	-	-	-	-	-	-	-
	復旧	0	0	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-
	田畑 転換	0	0	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	計	0	0	0	0	7	69	120	34	30	21	31	31	50
田	かい廃													
	自然 災害	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	人為 かい廃	359	286	309	218	152	217	-	-	-	-	-	-	-
	田畑 転換	73	59	122	32	26	13	-	-	-	-	-	-	-
	計	432	345	431	250	178	230	251	243	250	246	239	131	171
増 減		▲ 432	▲ 345	▲ 431	▲ 250	▲ 171	▲ 161	▲ 131	▲ 209	▲ 220	▲ 225	▲ 208	▲ 100	▲ 121

(資料:農林水産統計)

### イ 農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率(田)

(単位:ha,%)

R4年	作付(栽培) 延べ面積		麦類 (子実用)		大豆 (乾燥子実)		そば (乾燥子実)		その他作物		耕地利用率	
	実数	対前 年差	実数	対前 年差	実数	対前 年差	実数	対前 年差	実数	対前 年差	実数 (%)	対前年 (ポイント)
静岡	20,100	▲ 200	x	-	157	▲ 41	47	▲ 5	4,150	140	93.9	▲ 1
全国	2,187,000	▲ 13,000	185,800	5,400	120,700	5,100	38,300	▲ 200	486,600	25,800	93.0	0
全国 シェア	0.9	-	-	-	0.1	-	0.1	-	0.9	-	-	-

(資料:農林水産統計)



## ウ 水田区画整備状況

(単位:ha,%)

	水田耕地	30a以上に整形	
	面積	面積	比率
H24年	23,200	10,738	46.3
H25年	23,000	10,737	46.7
H26年	22,900	10,762	47.0
H27年	22,700	10,762	47.4
H28年	22,500	10,769	47.9
H29年	22,400	10,766	48.1
H30年	22,200	10,773	48.5
R元年	21,900	10,708	48.9
R2年	21,700	10,718	49.4

(資料：水田耕地面積；農林水産省 耕地及び作付面積統計、区画整備面積；農林水産省 農業基盤情報基礎調査)

## (8) 稲作経営統計

### ア 水稻作収益性

(単位：円,%)

	H2年	H7年	H12年	H17年	H22年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	H25年全国
粗収益 (10a当たり)	143,919	144,470	142,964	129,237	111,385	123,807	105,860	92,321	110,429	120,860	・	113,522
収量 (10a当たり)	486	513	536	510	494	509	499	467	505	478	468	528
主産物価格 (60kg当たり)	16,847	16,897	15,770	14,751	13,220	14,337	12,567	11,607	12,802	14,493	・	12,632
副産物価格 (10a当たり)	7,521	2,462	2,201	3,878	2,409	2,445	1,226	1,875	2,623	5,507	2,565	2,373
農業所得 (10a当たり)	35,526	59,407	45,358	41,874	12,593	30,326	・	・	・	・	・	27,177
所得率	24.7	41.1	31.7	32.4	11.3	24.5	・	・	・	・	・	23.9
家族労働報酬 (1日当たり)	438	3,551	2,269	3,338	▲1,161	2,222	・	・	・	・	・	3,646
利潤	▲87,215	▲80,920	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(資料：農林水産統計)

注1) 平成6年から、600kg以上販売かつ対平年収量増減率±20%未満の販売農家を調査対象とした。

2) 10a当たり収量については、調査対象農家(販売農家)の平均である。

## イ 水稻作生産費

(単位：10a当たり円)

	H2年	H7年	H12年	H17年	H22年	H27年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R4全国
種 苗 費	2,503	2,628	3,914	4,706	2,648	1,965	4,285	5,049	5,373	5,484	6,750	4,000
肥 料 費	9,287	9,365	9,011	10,569	10,501	9,790	10,469	11,197	11,283	11,767	11,221	9,810
農 業 薬 剤 費	9,266	9,280	9,035	7,942	8,591	7,856	8,980	7,795	8,079	10,684	10,376	7,664
光 熱 動 力 費	2,942	3,294	3,554	3,176	4,925	7,682	7,799	5,100	4,579	5,170	6,461	5,567
諸 材 料 費	3,305	3,810	3,226	4,019	2,814	3,364	2,827	1,893	2,139	1,987	1,639	1,944
土地改良及び水利費	1,769	2,203	2,253	2,377	985	1,184	2,235	1,599	1,451	1,301	1,712	3,932
賃借料及び料金	9,838	6,343	7,782	4,894	11,895	2,615	4,693	8,739	7,581	8,073	11,866	12,359
物件及び公課諸負担	-	2,311	3,588	2,679	5,562	3,599	4,587	2,144	1,628	1,888	3,461	1,928
建 物 費	-	8,875	9,711	3,520	7,139	9,306	7,144	2,374	1,971	1,670	2,659	4,019
建物及び土地改良費	8,828	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
農 機 具 費	57,278	35,182	44,331	34,398	41,707	46,570	42,436	31,452	30,595	29,207	29,531	27,662
生産管理費	-	144	22	281	161	850	1,208	299	489	506	1,908	439
労 働 費	93,782	110,732	96,542	80,375	74,971	67,861	72,130	73,187	68,441	62,902	52,921	33,478
費用合計	198,798	194,167	192,969	158,936	171,899	162,642	168,793	150,828	143,609	140,639	140,505	112,802
副産物価額	7,521	2,462	2,201	3,878	2,409	1,875	2,565	1,211	1,274	1,561	2,121	2,228
生産費 (副産物価額差引)	191,277	191,705	190,768	155,058	169,490	160,767	166,228	149,617	142,335	139,078	138,384	110,574
支払利子・地代算入生産費	-	192,048	191,880	157,683	171,094	164,886	171,530	157,067	149,915	146,756	144,874	115,510
自己資本利子	15,625	-	13,522	10,741	7,196	8,063	6,861	5,916	5,168	5,388	4,156	5,052
自作地地代	16,711	-	15,099	11,622	12,277	6,950	5,691	4,483	4,126	3,174	3,248	8,370
全算入生産費	223,613	222,928	220,501	180,046	190,567	179,899	184,082	167,466	159,209	155,318	152,278	128,932
60kg 当たり	生産費 (副産物価額差引)	23,623	22,710	21,617	18,246	20,561	20,633	21,326	16,903	16,981	17,987	13,098
	支払利子・地 代算入生産費	-	22,461	21,495	18,554	20,756	21,162	22,006	17,745	17,885	18,980	13,683
	全算入生産費	27,617	26,073	24,702	21,186	23,118	23,089	23,616	18,920	18,994	20,088	15,273

(資料：農林水産統計)

注) 平成6年から、600kg以上販売かつ対平年収量増減率±20%未満の販売農家を調査対象とした。

## ウ 水稻作作業別の労働時間

(単位：10a当たり時間)

	H2年	H7年	H12年	H17年	H22年	H27年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R4全国
種 子 予 措				0.7	0.5	0.8	0.6	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2
育 苗	6.2	5.2	4.6	5.5	4.5	3.9	3.9	3.6	4.0	3.3	1.8	2.6
耕 起 ・ 整 地	7.3	9.5	8.2	5.3	9.2	8.2	6.8	5.3	4.2	3.8	4.6	3.2
施 肥	基肥	1.9	—	—	1.7	1.7	1.5	1.2	1.1	1.5	1.4	0.8
	追肥	1.7	—	—	1.0	0.4	0.1	0.2	0.4	0.5	0.3	0.2
田 植	7.5	8.6	7.1	7.0	7.7	6.0	5.3	3.6	3.1	3.9	2.6	2.7
除 草	4.9	5.7	6.3	3.9	3.9	2.7	2.7	2.6	1.8	1.7	1.4	1.0
管 理	10.2	9.1	10.1	9.9	7.0	8.1	7.2	10.9	8.1	7.8	7.1	5.4
防 除	4.3	—	—	1.4	1.3	2.9	2.4	1.2	1.8	2.0	1.5	0.5
刈 取 脱 穀	12.9	13.1	10.5	9.7	7.8	7.9	7.6	5.2	5.5	4.7	3.7	2.6
乾 燥 ・ 調 整	3.8	—	—	3.4	2.5	3.7	4.2	5.2	3.7	3.1	2.0	1.2
そ の 他	—	13.9	12.3	0.6	0.4	0.7	0.8	1.5	1.2	0.8	1.0	0.4
合 計	60.7	65.1	59.1	50.0	45.5	46.5	42.9	38.8	35.6	32.9	27.4	20.7

(資料：農林水産統計)

注) 平成6年から、600kg以上販売かつ対平年収量増減率±20%未満の販売農家を調査対象とした。

## (9) 農地の流動化と作業受委託

### ア 農林別の農用地区域面積と担い手への利用集積率

#### ○地目別の農用地区域面積（農林別）

(単位:ha)

	農用地	田	畑	樹園地	採草牧草地
賀茂	1,172.2	488.0	161.2	480.0	43.0
東部	7,132.7	3,663.1	2,178.7	1,176.2	114.7
富士	4,211.0	1,423.3	1,511.6	1,273.6	2.5
中部	5,547.5	417.1	80.1	5,050.1	0.2
志太榛原	10,368.8	3,125.1	464.2	6,741.3	38.2
中遠	16,082.1	8,269.4	2,067.3	5,667.2	78.2
西部	12,070.8	2,896.7	3,393.4	5,772.7	8.0
合計	56,585.1	20,282.7	9,856.5	26,161.1	284.8

(資料:農地利用課)

注)農用地区域面積は、令和4年度の農業振興地域内農用地区域面積  
数字はラウンドしているため、合計が一致しない場合がある

#### ○担い手への農地利用集積状況（農林別）

(単位:ha)

	経営体数(戸)	利用集積面積							集積率	耕地面積
		計	自己所有		借入地		特定農作業受託			
			うち田	うち畑	うち田	うち畑	うち田	うち畑		
賀茂	272	32,967	19,072	2,438	12,736	3,650	1,159	1,061	24.0%	137,600
東部	1,352	277,502	151,969	48,272	94,169	43,667	31,364	31,364	30.1%	920,900
富士	575	178,544	86,029	11,880	88,269	31,269	4,246	3,500	34.6%	516,000
中部	1,335	178,307	125,471	9,765	52,704	6,185	132	0	43.6%	409,000
志太榛原	2,272	522,223	259,593	41,943	229,828	88,313	32,802	32,532	52.6%	993,700
中遠	3,594	1,022,166	316,130	104,686	661,721	405,730	44,315	38,238	61.0%	1,676,200
西部	3,182	488,005	295,232	43,665	192,274	54,146	500	500	37.9%	1,286,000
合計	12,582	2,699,715	1,253,496	262,650	1,331,700	632,961	114,518	107,195	45.4%	5,947,000

(資料:農業ビジネス課・令和5年度)

注)利用集積面積は令和5年度末時点の調査結果

### イ 水稲作作業委託農家数

(単位:戸)

区分	委託農家数	全作業	部分作業					
			育苗	耕起・代かき	田植	防除	稲刈・脱穀	乾燥・調整
平成22年	10,180	477	4,160	2,643	2,550	659	6,360	7,993
平成27年	6,470	368	2,550	1,470	1,560	548	4,142	5,068
令和2年	-	-	-	-	-	-	-	-

(資料:農林業センサス)

### ウ 水稲作作業受託農家数

(単位:戸)

区分	受託農家数	全作業	部分作業					
			育苗	耕起・代かき	田植	防除	稲刈・脱穀	乾燥・調整
平成22年	1,650	108	377	905	827	143	1,171	978
平成27年	1,572	177	386	791	802	163	1,119	902
令和2年	1,179	197	274	582	532	119	818	643

(資料:農林業センサス)

### エ 水稲作作業受託面積

(単位:ha)

区分	面積計	全作業	部分作業					
			育苗	耕起・代かき	田植	防除	稲刈・脱穀	乾燥・調整
平成22年	6,892	171	764	781	709	161	1,991	2,315
平成27年	11,341	206	2,333	642	664	2,302	2,098	3,096
令和2年	7,584	197	1,042	452	471	2,244	1,364	1,817

(資料:農林業センサス)

### オ 主要農業機械所有台数

(単位:台)

	動力耕うん機	乗用型トラクター			動力噴霧器	田植機	バインダー	自脱型コンバイン	普通型コンバイン	米麦用乾燥機
		15ps未満	15ps以上	計						
昭和60年	68,295	10,908	11,945	22,853	69,170	33,742	31,286	9,499	—	19,561
平成2年	61,956	12,150	16,424	28,574	61,513	35,401	30,211	11,870	—	15,437
平成7年	—	9,369	16,889	26,258	53,992	25,361	—	10,791	—	—
平成12年	34,267	8,605	18,737	27,342	41,713	24,637	14,737	11,619	—	9,568
平成17年	—	12,017	17,247	29,264	*37,121	19,938	—	7,150	4,851	—
平成22年	—	—	—	22,032	—	16,290	—	9,704		—
平成27年	—	—	—	16,266	—	12,228	—	7,767		—
令和2年	—	—	—	—	—	—	—	—		—

注1) 12年より販売農家のみが調査対象

(資料:農林業センサス)

2) \*平成17年は動力防除機の数値

## 2 米の農産物検査状況

### (1) 種類別農産物検査状況

(単位:t)

年産	種類 計	玄米					飼料用	
		水稲うるち	水稲もち	醸造用	陸稲うるち	陸稲もち	もみ	玄米
平成14年	18,003	17,182	334	487	-	0.3	-	-
平成15年	16,351	15,624	264	463	-	0	-	-
平成16年	19,470	18,458	599	411	-	2	-	-
平成17年	20,035	18,930	646	458	-	1	-	-
平成18年	20,149	19,000	533	616	-	-	-	-
平成19年	20,737	19,621	438	678	-	-	-	-
平成20年	20,887	19,680	474	733	-	0	-	-
平成21年	20,884	19,876	487	521	-	-	-	-
平成22年	20,615	19,757	448	410	-	-	-	-
平成23年	21,662	20,884	463.3	314	-	-	-	-
平成24年	22,479	21,465	587	426	-	-	-	-
平成25年	23,612	22,490	566	555	-	-	-	-
平成26年	25,018	23,763	503	752	-	-	2,218	878
平成27年	24,265	22,863	549	853	-	-	2,634	1,813
平成28年	25,673	24,266	598	809	-	-	3,463	2,023
平成29年	24,494	23,063	586	845	-	-	4,604	1,891
平成30年	23,511	22,384	502	604	-	-	3,738	1,936
令和元年	25,590	24,413	522	655	-	-	4,387	2,093
令和2年	22,980	22,040	451	489	-	-	3,424	1,816
令和3年	24,747	23,762	457	528	-	-	3,894	2,160
令和4年	26,675	25,609	449	617	-	-	4,341	2,550
令和5年	26,664	25,664	370	630	-	-	3,345	2,353

注)令和5年産は5年12月末時点

(資料:農産物検査結果)

### (2) 農産物検査結果(玄米)

年産	種類 合計数量 (t)	等級比率(%)						
		特上	特等	1等	2等	3等	規格外	等外
平成14年	18,003	-	-	56.9	36.6	6.2	0.3	-
平成15年	16,351	-	0.0	73.1	23.5	3.2	0.2	-
平成16年	19,470	-	0.0	58.9	37.3	3.6	0.2	-
平成17年	20,035	-	-	64.8	29.5	5.2	0.4	-
平成18年	20,149	-	0.0	71.3	25.1	3.4	0.3	-
平成19年	20,737	-	0.0	71.5	25.5	2.5	0.4	-
平成20年	20,887	-	-	72.6	24.9	2.2	0.2	-
平成21年	20,884	-	-	80.4	16.4	2.3	1.0	-
平成22年	20,615	-	-	62.0	32.9	3.8	1.3	-
平成23年	21,662	-	0.0	67.5	28.2	3.2	1.1	-
平成24年	22,479	-	0.0	72.6	24.1	2.8	0.5	-
平成25年	23,612	-	0.1	68.4	27.0	4.1	0.3	-
平成26年	25,018	-	0.4	79.2	18.4	1.8	0.2	-
平成27年	24,265	-	0.3	78.5	18.1	2.9	0.2	-
平成28年	25,673	-	0.1	84.9	13.1	1.6	0.2	-
平成29年	24,494	-	0.2	84.3	13.7	1.5	0.2	-
平成30年	23,511	-	0.3	79.2	18.1	2.3	0.1	-
令和元年	25,590	-	0.1	74.4	19.9	2.9	0.3	-
令和2年	22,980	-	0.1	77.1	18.1	3.9	0.9	-
令和3年	24,747	-	0.1	84.5	12.2	2.7	0.5	-
令和4年	26,675	-	0.0	90.0	15.9	3.1	0.5	-
令和5年	26,664	-	0.1	75.8	18.6	4.9	0.6	-

注)令和5年産は5年12月末時点

(資料:農林水産省)

(3) 銘柄別農産物検査結果（玄米）

品種	令和4年産						令和5年産					
	検査数量 (t)	等級比率 (%)					検査数量 (t)	等級比率 (%)				
		特等	1等	2等	3等	規格外		特等	1等	2等	3等	規格外
コシヒカリ	15008		84.2	13.2	2.1	0.4	15249		79.8	16.2	3.6	0.4
きぬむすめ	3799		78.3	16.6	4.5	0.6	3782		71.5	22.8	4.9	0.8
あいちのかおり	1502		65.2	29.3	4.7	0.8	1314		55.8	33.8	9.7	0.7
にこまる	1874		83.7	12.4	2.5	1.4	1974		82.8	11.2	5.0	0.9
にじのきらめき	847		81.0	17.4	1.6	0.0	1318		75.1	17.3	6.2	1.4
キヌヒカリ	261		60.9	35.7	3.2	0.2	179		40.6	51.9	5.0	2.5
歓喜の風	571		92.9	6.4	0.7	0.0	390		92.4	6.3	1.2	0.0
ミルキークイーン	375		85.0	13.5	1.4	0.1	358		79.9	18.7	1.4	0.0
ヒノヒカリ	236		94.7	4.5	0.8	0.0	202		94.2	4.7	1.0	0.0
ひとめぼれ	219		62.0	30.0	8.0	0.0	205		51.6	38.9	9.5	0.0
つくばSD1号	24		3.7	96.3	0.0	0.0	0.8		0.0	71.4	28.6	0.0
なつしずか	77		95.5	0.4	4.2	0.0	74		98.2	0.4	1.4	0.0
あさひの夢	13		71.8	0.5	0.0	27.8	32		29.9	70.0	0.1	0.0
あきたこまち	19		24.2	70.6	5.2	0.0	16		35.4	59.6	5.0	0.0
LGCソフト	43		76.1	23.9	0.0	0.0	18		77.4	22.6	0.0	0.0
いのちの壺	10		94.3	5.2	0.6	0.0	3		83.0	0.0	17.0	0.0
はいごころ	2		100.0	0.0	0.0	0.0	5		27.5	0.0	72.5	0.0
ふくのいち	0.5		38.9	44.4	16.7	0.0	0		-	-	-	-
みつひかり	3		97.7	2.3	0.0	0.0	2		0.0	100.0	0.0	0.0
山田錦	371	0.0	68.8	15.3	15.7	0.3	364	3.9	70.6	15.7	13.4	0.2
誉富士	214	4.5	68.4	14.5	17.2	0.0	222	5.5	71.4	16.9	11.8	0.0
五百万石	17	0.0	0.0	9.4	90.6	0.0	16		10.7	62.6	26.7	0.0
峰の雪もち	215		76.8	18.1	4.1	1.0	197		76.2	19.2	3.1	1.5
葵美人	63		55.5	36.3	7.7	0.5	37		58.5	31.8	8.1	1.5
するがもち	0		-	-	-	-	0.06		0.0	100.0	0.0	0.0

注) 令和5年産は5年12月末時点

(資料: 農産物検査結果)

(4) 農産物検査を行う産地品種銘柄

		令和6年産	
		必須銘柄	選択銘柄
水稻	うるち玄米 うるちもみ	あいちのかおり あさひの夢 キヌヒカリ きぬむすめ コシヒカリ にこまる ひとめぼれ ヒノヒカリ ミルククイーン	あきたこまち いのちの壺 LGCソフト 吟おうみ きんのめぐみ つくばSD1号 なつしずか ふくのいち みつひかり 歓喜の風 はいごころ 縁結び ゆめみしま にじのきらめき
	醸造用玄米	五百万石 誉富士 山田錦	令和誉富士
	もち玄米 もちもみ	するがもち 峰の雪もち	葵美人
麦類	普通小麦	イワイノダイチ	農林61号 きぬあかり
	普通小粒大麦		シュンライ
	普通大粒大麦		ミカモゴールドデン
大豆	大豆	フクユタカ	

注1) 産地品種銘柄「静岡県 あいちのかおり」として扱われる品種  
あいちのかおり、あいちのかおりSBL

注2) 産地品種銘柄「静岡県 みつひかり」として扱われる品種  
みつひかり2003、みつひかり2005

注3) 必須銘柄：概ね産地の全域で検査実績があり、登録検査機関が銘柄検査の  
実施義務を負う銘柄。

選択銘柄：登録検査機関が銘柄検査の実施を選択できる銘柄。

### 3 水稻種子生産状況

#### (1) 水稻採種ほ設置面積

(単位:a)

種子組合	H17	H22	H28	H30	R元	R2	R3	R4	R5
北 駿	2,089	2,284	1,624	1,624	1,901	1,983	2,049	2,154	2,153
菊 川	1,628	1,559	1,242	1,242	1,325	1,389	1,484	1,620	1,573
森	833	760	505	505	-	-	-	-	-
藤 枝	2,055	2,211	1,968	1,968	1,939	1,984	1,848	1,816	1,752
袋 井	715	715	680	680	679	600	500	500	439
計	7,320	7,529	6,019	6,019	5,844	5,956	5,881	6,090	5,917

(資料:静岡県米麦協会)

#### (2) 水稻種子確保状況

区 分		H17	H22	H28	H30	R元	R2	R3	R4	R5
採種ほ面積	a	7,320	7,529	6,019	6,486	5,844	5,956	5,881	6,090	5917
種子確保量	kg	364,988	378,226	331,364	343,960	316,700	325,116	321,770	357,660	未公表
県内種子生産量	kg	278,400	294,180	269,200	268,800	255,040	242,040	232,680	270,300	
低温貯蔵等種子	kg	26,560	1,586	3,344	1,860	0	5,796	9,240	21,420	
県外産種子	kg	60,028	82,460	111,520	73,300	61,660	77,280	79,850	65,940	
種子配布量	kg	340,272	350,724	346,854	319,120	310,166	310,599	284,816	275,428	
県内産種子占有率	%	81.8	83.9	77.6	84.2	82.2	77.9	81.7	98.1	
種子更新率	%	47.7	60.9	62.5	62.3	64.0	63.6	63.6	62.1	

注 1) 県内産種子占有率は、県内種子生産量÷種子配布量

(資料:静岡県米麦協会)

2) 配布量には、県外販売分は含まない



### (3) 水稻種子配布実績

(単位:kg)

品種名	H28播き	H29播き	H30播き	R元播き	R2播き	R3播き	R4播き	R5播き
なつしずか	672	680	628	532	448	452	436	360
ひとめぼれ	13,748	12,604	12,192	11,368	11,436	11,044	10,268	9,156
キヌヒカリ	30,728	25,700	24,160	22,968	21,428	21,008	16,788	10,668
コシヒカリ	139,476	139,300	138,996	136,652	132,920	126,664	124,148	118,820
あさひの夢	560	—	—	—	—	—	—	—
きぬむすめ	39,484	41,016	44,598	47,916	50,488	54,048	53,628	50,792
にこまる	17,980	18,388	19,144	18,740	22,756	23,092	21,500	21,044
あいちのかおりSBL	48,120	45,260	42,292	42,144	37,664	34,548	28,844	25,732
ヒノヒカリ	4,272	3,752	3,580	3,760	3,656	4,000	3,416	3,536
あきたこまち	1,124	748	696	664	700	636	628	168
ミルキークイーン	1,188	1,500	1,480	1,780	1,868	1,980	2,444	2,224
五百万石	288	164	152	160	156	188	132	128
山田錦	256	60	—	—	—	—	—	—
誉富士※	1,964	1,980	1,984	2,056	2,212	2,140	2,104	2,800
峰の雪もち	5,324	5,390	5,294	6,376	7,176	4,380	6,476	6,016
するがもち	6,820	6,182	—	—	—	—	—	—
葵美人	—	—	904	4,700	4,588	4,557	4,106	3,762
ヒヨクモチ	2,376	3,072	7,730	2,890	2,706	2,766	1,776	1,658
あきだわら	5,160	5,200	2,980	5,140	5,600	10,740	2,920	2,160
もちだわら	—	—	—	—	—	—	—	—
どんとこい	—	—	—	300	40	20	80	0
その他品種	100	488	4,564	1,600	4,480	6,196	13,036	13,036
合計	319,640	311,484	311,374	309,746	310,322	308,459	292,730	272,060

注) 平成21年まではあいちのかおり、平成22年以降はあいちのかおりSBL

(資料:静岡県経済連)

※R5播きは令和誉富士

### (4) 水稻奨励品種の改廃

種類	品種名	採用した年	除外した年	種類	品種名	採用した年	除外した年	種類	品種名	採用した年	除外した年
うるち	愛知旭	昭和7年	昭和43年	うるち	アキバエ	昭和34年	昭和37年	うるち	どんとこい	平成6年	平成16年
	大正赤穂66号	昭和11年	昭和33年		北真千力	昭和34年	昭和43年		ふじの舞	平成6年	平成16年
	農林1号	昭和15年	昭和33年		コシヒカリ	昭和36年	昭和47年		五百万石	平成12年	
	ハツシモ	昭和20年	昭和30年		ホウヨク	昭和38年	昭和46年		あさひの夢	平成13年	平成24年
	農林29号	昭和21年	昭和48年		ふじこがね	昭和38年	昭和48年		なつしずか	平成13年	
	農愛3号	昭和22年	昭和34年		クサナギ	昭和38年	昭和55年		誉富士	平成21年	令和4年
	農林23号	昭和22年	昭和35年		ハルカゼ	昭和42年	昭和48年		あいちのかおりSBL	平成22年	
	藤坂5号	昭和25年	昭和33年		玉栄	昭和44年	昭和52年		にこまる	平成23年	
	ホマサリ	昭和25年	昭和33年		スルガワセ	昭和44年	昭和52年		きぬむすめ	平成24年	
	邦栄6号	昭和25年	昭和38年		晴々	昭和44年	平成5年		にじのきらめき	令和2年	
	トネワセ	昭和25年	昭和59年		しずたま	昭和46年	平成3年		令和誉富士	令和3年	
	シモツキ	昭和26年	昭和37年		アキツホ	昭和47年	昭和59年		旭糯	昭和7年	昭和47年
	昭南	昭和26年	昭和38年		ニホンマサリ	昭和49年	平成3年		大正糯30号	昭和15年	昭和33年
	金南風	昭和26年	昭和55年		フジヒカリ	昭和52年	昭和62年		祝糯	昭和27年	昭和38年
	豊千本	昭和27年	昭和34年		シズヒカリ	昭和55年	平成6年		コトブキモチ	昭和28年	昭和52年
	ミホニシキ	昭和27年	昭和47年		コシヒカリ	昭和57年			志太糯	昭和33年	昭和34年
	黄金丸	昭和28年	昭和35年		初星	昭和58年	平成5年		信濃糯3号	昭和34年	昭和52年
	ヤエホ	昭和28年	昭和47年		黄金晴	昭和58年	平成14年		ゆたかもち	昭和38年	昭和58年
	フクスケ	昭和30年	昭和33年		月の光	昭和61年	平成9年		オトメモチ	昭和52年	平成5年
	農林17号	昭和30年	昭和37年		キヌヒカリ	平成3年	令和3年		するがもち	昭和52年	平成30年
かほり	昭和30年	昭和38年	ひとめぼれ	平成4年		葵糯	昭和58年	平成6年			
白菊	昭和31年	昭和44年	若水	平成4年	平成12年	峰の雪もち	平成4年				
ハマユウ	昭和32年	昭和43年	あいちのかおり	平成4年	平成22年	静太郎糯	平成6年	平成11年			
京見17号	昭和33年	昭和35年	葵の風	平成6年	平成11年	葵美人	平成28年				

(資料:農芸振興課)

## 4 麦・大豆生産の状況

### (1) 麦・大豆の作付面積及び収穫量

	麦計								大豆	
	R4産		R5産		小麦		二条大麦			
	R4産	R5産	R4産	R5産	R4産	R5産	R4産	R5産	R4産	R5産
作付面積 (ha)	766	739	749	719	17	20	x	x	203	206
うち田	x	x	717	690	x	x	x	x	157	160
うち畑	x	x	32	29	x	x	x	x	46	46
単収 (kg/10a)	-	245	247	257	212	350	156	128	72	67
収穫量 (t)	1886	1920	1850	1850	36	70	-	x	146	138
全国作付面積 (千ha)	290.6	295.7	227.3	231.7	38.1	38.9	19.3	19.6	151.6	154.7
全国単収 (kg/10a)	-	-	437	472	397	389	337	329	160	168
全国収穫量 (千t)	1227.0	1326.0	993.5	1094.0	151.2	151.3	65.1	64.4	242.8	259.8

注1) 麦は子実用

(資料：農林水産統計)

注2) 「0」は1未満の数値。「x」は秘密保護の観点から公表されない数値。

### (2) 小麦生産状況

年産	H7	H12	H17	H22	H27	H30	R元	R2	R3	R4	R5
作付面積 (ha)	509	1010	945	797	771	758	791	727	744	749	719
うち田	-	-	860	776	715	721	753	699	715	717	690
うち畑	-	-	85	21	56	37	38	28	29	32	29
単収 (kg/10a)	261	338	245	112	117	229	300	226	311	247	257
収穫量 (t)	1330	3410	2320	895	902	1740	2370	1640	2310	1850	1850
全国作付面積 (千ha)	151.3	183.0	213.5	208.1	213.1	211.9	211.6	212.6	220.0	227.3	231.7
全国単収 (kg/10a)	293	376	410	276	471	361	484	444	490	437	472
全国収穫量 (千t)	443.6	688.2	874.7	571.3	1004.0	764.9	1025.0	943.8	1078.0	993.5	1094.0

注) 子実用

(資料：農林水産統計)

### (3) 大豆生産状況

年産	H7	H12	H17	H22	H27	H30	R元	R2	R3	R4	R5
作付面積 (ha)	357	578	462	369	319	260	251	223	244	203	206
うち田	177	433	348	308	240	189	188	163	198	157	160
うち畑	180	145	114	61	79	71	63	60	46	46	46
単収 (kg/10a)	149	162	123	93	59	69	76	76	82	72	67
収穫量 (t)	532	936	568	343	188	179	191	169	200	146	138
全国作付面積 (千ha)	68.6	122.5	134.0	137.7	142.0	146.6	143.5	141.7	146.2	151.6	154.7
全国単収 (kg/10a)	173	192	168	162	171	145	148	154	169	160	169
全国収穫量 (千t)	119.0	235.0	225.0	222.5	242.4	212.9	212.3	218.9	246.5	242.8	260.8

(資料：農林水産統計)

# 5 主要農作物奨励品種

## (1) 水稲

種類	熟期区分	品種名	採用年度	来歴 (育成場所・育成年)	田植期 月・日	出穂期 月・日	成熟期 月・日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m <sup>2</sup>	草型	芒の 多少・ 長短	ふ先 色	脱粒 の難 易	玄米の 千粒重 g	品質	食味	諸 抵 抗 性										概評		適地
																		葉い もち	穂い もち	白葉 枯病	紋枯病	縞葉 枯病	イネカ ラバエ	耐冷 (寒)性	高温 耐性	耐倒 伏性	穂発 芽性	優点	欠点	
水稲 うるち	極早生	ひとめぼれ	H4	コシヒカリ×初星 宮城古川農試 S57	6. 1 (5. 12)	8. 6 (8. 5)	9. 12 (9. 17)	82 (78)	20. 5 (19. 8)	382 (400)	偏穂数型	稀・短	黄白	難	23. 7 (22. 7)	中の中	上の上	やや弱	やや弱	やや弱	中	罹病性	-	強	中	やや弱	難	良食味 耐冷性強	いもち病にやや弱い 耐倒伏性やや弱	県下一円
		なつしずか	H13	(関東136号×コシヒカリ) ×ナツヒカリ 静岡県農試 H13	6. 1 (4. 20)	8. 1 (7. 8)	9. 4 (8. 11)	69 (71)	20. 0 (18. 6)	365 (479)	偏穂数型	稀・短	黄白	難	22. 6 (21. 8)	上の下	上の中	極強	強	やや弱	中	罹病性	-	やや弱	強	やや強	やや難	いもち病に強い 耐倒伏性やや強 高温耐性強	耐冷性やや弱	平坦地一円
		五百万石 (酒米)	H12	菊水×新200号 新潟農試 S32	6. 1 (5. 12)	8. 2 (7. 30)	9. 10 (9. 14)	84 (84)	22. 7 (21. 8)	269 (307)	偏穂重型	稀・短	黄白	難	25. 1 (25. 8)	中の上	-	中	やや弱	弱	中	罹病性	-	やや弱	-	中	中	酒造好適米	耐冷性やや弱 穂いもちにやや弱い	県下一円
	中生	コシヒカリ	S57	農林22号×農林1号 福井県農試 S31	6. 1 (4. 20)	8. 8 (7. 18)	9. 12 (8. 23)	87 (84)	19. 5 (19. 5)	344 (408)	偏穂数型	稀・短	黄白	難	23. 0 (21. 8)	中の中	上の上	やや弱	弱	中	中	罹病性	中	強	中	弱	やや難	良食味 耐冷性強	いもち病に弱い 耐倒伏性弱	高冷地 平坦地排水良好 田
		にじのきらめき	R2	なつほのか×北陸223号 中央農研センター(北陸拠 点) H30	6. 1 (4. 20)	8. 8 (7. 16)	9. 15 (8. 25)	68 (66)	20. 2 (20. 3)	306 (396)	中間型	稀・短	黄白	難	25. 3 (23. 9)	上の下	上の上	中	やや強	やや弱	中	抵抗性	-	-	やや強	強	難	良食味、多収 耐倒伏性やや強 高温耐性やや強 縞葉枯病抵抗性	白葉枯病にやや弱い	県下一円
	晩生	きぬむすめ	H24	キヌヒカリ×愛知92号 (独)九州沖繩農研センター H17	6. 1	8. 18	9. 25	80	18. 3	304	中間型	稀・短	黄白	難	22. 9	中の上	上の上	やや弱	中	やや弱	中	罹病性	-	-	中	中	中	良食味	葉いもちにやや弱い	平坦地一円
		あいちのかおり SBL	H22	あいちのかおり×F3(あ いちのかおり*2/愛知78 号/あいちのかおり) 愛知県農総試 H11	6. 1	8. 24	10. 4	81	20. 9	329	中間型	少・短	黄白	難	25. 5	中の上	上の上	やや弱	やや強	やや強	やや強	抵抗性	-	-	中	中	やや難	良食味 縞葉枯病抵抗性 穂いもちにやや強い	葉いもちにやや弱い	平坦地一円
		にこまる	H23	は系626×北陸174号 九州農試 H17	6. 1	8. 26	10. 7	85	19. 9	300	偏穂重型	稀・短	黄白	難	24. 0	上の下	上の上	やや弱	やや弱	中	中	罹病性	-	-	中	中	やや難	良食味	いもち病にやや弱い	平坦地一円
		令和誉富士	R3	愛知酒117号×YM310(山 田錦×線照射突然変異系 統) R3	6. 1	8. 25	10. 3	88	18. 6	359	中間型	無	黄白	難	28. 0	上の下	-	やや弱	-	-	-	-	-	-	-	-	やや強	中～ やや難	酒造好適米 玄米外觀品質良好 耐穂発芽性 中～やや難	葉いもちにやや弱い
	水稲 もち	極早生	峰の雪もち	H4	奥羽302号×ヒメノモチ 北陸農試 H4	6. 1 (5. 12)	8. 3 (8. 1)	9. 8 (9. 12)	55 (61)	18. 4 (19. 2)	254 (372)	偏穂重型	無	黄白	難	23. 5 (23. 1)	中の上	上の中	弱	やや弱	やや弱	中	罹病性	-	-	-	強	やや難	良質 餅質良 耐倒伏性強	いもち病にやや弱い
晩生		葵美人	H28	静系糯13号×中部糯93号 静岡県農林技研 H28	6. 1	8. 23	10. 7	76	21. 1	312	穂重型	稀・短	褐	難	24. 6	中の上	上の中	中	-	-	-	抵抗性	-	-	-	強	やや難	餅質良 縞葉枯病抵抗性 耐倒伏性強	-	平坦地一円

< > 平坦地早期 ( ) 高冷地

## (2) 小麦

品種名	採用年度	来歴 (育成場所・育成年)	播性 程度	は種期 月・日	出穂期 月・日	成熟期 月・日	叢生	株の 開閉	稈長 cm	稈の 強弱	穂長 cm	穂数 本/m <sup>2</sup>	穂型	芒の 長短	ふ色	粒色	品質	千粒重 g	容積重 g/L	穂発芽 性	脱粒性	諸抵抗性						概評		適地
																						うどんこ病	赤かび病	赤さび病	縮萎縮病	耐湿性	耐倒伏性	優点	欠点	
きぬあかり	H28	きぬの波×西海184号 愛知県農総試 B21	II	11.22	4.4	5.29	やや匍	やや閉	81	やや強	9.9	381	紡錘	中	黄	黄褐	上の中	43.5	799	難	中	やや弱	中	中	強	やや強	やや強	早生、安定した品質、多収、良質な生地物性	低タンパク質含量 うどんこ病にやや弱い	県下一円

注) 播性程度とは、幼穂形成にあたり生育初期において要求する低温期間の長さを示すものであり、I (短い)～VII (長い) の7段階に分類される。

## (3) 大豆

品種名	採用年度	来歴 (育成場所・育成年)	生態型	は種期 月・日	開花期 月・日	成熟期 月・日	主茎長 cm	分枝数 本	主茎節数	毛茸の有無及び色		花色	熟葉色	百粒重 g	粒の 大小	粒形	粒色	臍色	品質	裂莢性	諸抵抗性						概評		適地
										多少	色										べと病	さび病	紫斑病	ウイルス病	耐倒伏性	裂皮	優点	欠点	
フクユタカ	S57	岡大豆×白大豆3号 九州農試 S55	IVc 秋大豆	7.1	8.18	11.5	79	5.5	15.6	多	白	紫	淡褐	29.3	中の大	球	黄白	淡褐	上の中	中	中	中	強	中	やや強	少	良質、多収	裂皮粒が発生しやすい掲目	県下一円

注) 生態型におけるIVcとは、開花までの日数が約90日、結実日数が80日以上であることを示す。

### 第3 参考資料

#### 1 令和5年産水稻の生育概況

##### (1) 早期栽培 コシヒカリ

ア 試験場所 農林技術研究所 三ヶ野圃場 (磐田市三ヶ野)

##### イ 耕種概要

(ア) 移植期 令和5年4月20日

(イ) 移植方法 稚苗1株3本手植え 栽植密度 18.5株/m<sup>2</sup> (平成23年以前は22.2株/m<sup>2</sup>)

(ウ) 施肥法 (窒素分量 kg/a)

基肥 (代かき時)	穂肥 (出穂前25日頃)
0.40	0.40

注) 平成17年以前は基肥:0.35kg/a、穂肥Ⅰ(出穂前18日頃):0.30kg/a、穂肥Ⅱ(出穂前10日頃):0.20kg/a

(エ) 中干し期間 6月3日～6月18日

##### ウ 生育概況

(ア) 育苗期

平年と比べ日照時間が長く気温が高かったため、苗の生育は早く草丈はやや高かった。

(イ) 分けつ期～ラグ期

平年と比べ日照時間は平年並みで気温はやや高かったため、移植後40日の草丈は長く、茎数は少なく、その後の台風(6/2 170mm)により冠水し生育は停滞した。

(ウ) 幼穂形成期～出穂期

平年と比べ気温は高く推移したため、出穂期は4日早まった。

(エ) 登熟期～成熟期

平年と比べ日照時間は長く、気温は高かったため、成熟期は6日早まった。

(オ) 収量・品質

- ・平年と比べ稈長は短く、穂長は平年並み、穂数は少なく、倒伏程度は小さかった。
- ・平年と比べ玄米千粒重は重く、玄米重は少なく、玄米外観品質は平年並みであった。

(カ) 病虫害及びその他の障害

- ・平年と比べ気温が高かったため、ニカメイチュウが早期発生し茎数が減少した。
- ・高温により紋枯病、出穂期の降雨により穂もち病が発生した。

##### エ 調査結果 (早期栽培コシヒカリの生育概況)

	草丈 (cm)			茎数 (本/m <sup>2</sup> )			出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	倒伏程度
	+40	+50	+60	+40	+50	+60						
平年	36	46	59	356	501	525	7.18	8.23	84	19.0	408	2.0
前年	37	46	59	461	624	620	7.12	8.17	84	20	411	2.7
<b>本年</b>	<b>37</b>	<b>50</b>	-	<b>337</b>	<b>401</b>	-	<b>7.14</b>	<b>8.17</b>	<b>76</b>	<b>19</b>	<b>339</b>	<b>1.2</b>
平年比 (%)	103	109	-	95	80	-	-	-	91	101	83	-
平年差	1	4	-	-19	-100	-	-4	-6	-8	0.2	-69	-0.8

注) 平年値は平成9年～令和4年までの平均値

	有効茎歩合 (%)	玄米重 (kg/a)	玄米千粒重 (g)	屑米重歩合 (%)	玄米外観品質
平年	76	55.4	21.8	2.8	5.2
前年	66	53.1	22.6	2.1	5.0
<b>本年</b>	<b>85</b>	<b>46.0</b>	<b>24.1</b>	<b>3.2</b>	<b>5.0</b>
平年比 (%)	-	83	111	-	-
平年差	8.7	-9.4	2.3	0.4	-0.2

## (2) 普通期栽培

### ア 試験場所

農林技術研究所 三ヶ野圃場 (磐田市三ヶ野)

### イ 耕種概要

#### (ア) 移植期

令和5年6月1日

#### (イ) 移植方法

稚苗1株3本手植え 栽植密度 18.5 株/m<sup>2</sup> (平成23年以前は 22.2 株/m<sup>2</sup>)

#### (ウ) 供試品種

熟 期	供 試 品 種
早生	コシヒカリ、にじのきらめき
中生	きぬむすめ
晩生	あいちのかおり SBL、にこまる

#### (エ) 施肥法 (窒素成分量 kg/a)

基 肥 (代かき時)	中 肥 (移植後 30~35 日頃)	穂 肥 (出穂前 25 日頃)
0.40	0.15 (早生品種除く)	0.40

#### (オ) 中干し期間

7月5日~7月11日

### ウ 生育概況

#### (ア) 育苗期

気温及び日照時間は平年並みに推移し、生育は順調であった。

#### (イ) 分けつ期~ラグ期

平年と比べ気温はやや高かったが、移植翌日の台風2号(6/2 170mm)により冠水し、水が引いた後も6月20日まで葉に泥が付着しており、移植後40日の生育調査では草丈は平年並みだが茎数はやや少なかった。

#### (ウ) 幼穂形成期~出穂期

・平年と比べ日照時間は長く、気温は高く、出穂は2~3日早まった。

#### (エ) 登熟期~成熟期

・平年と比べ日照時間は長く、気温は高く、成熟期は0~5日早まり、晩生品種の登熟日数は1~2日間短かった。

#### (オ) 収量・品質

- ・早生品種及び中生品種の稈長は平年並みで、穂長は平年と比べ長く、穂数はやや少なく、屑米は多く、玄米千粒重は重く、玄米重は平年と比べ少なかった。
- ・晩生品種の稈長は平年と比べやや短く、穂長はやや長く、穂数は少なく、屑米はやや多く、玄米千粒重はやや重い~並で、玄米重は平年と比べ少なかった。
- ・玄米外観品質は、高温による白未熟粒の発生が多く、やや不良であった。特に、「コシヒカリ」は基部未熟粒が多く、晩生品種は基部未熟粒と背白粒が多かった。

#### (カ) 病害虫及びその他の障害

- ・平年と比べ気温が高かったため、コメテウが早期発生し、茎数が減少した。
- ・イネカメムシによる玄米の吸汁被害が見られた。
- ・紋枯病、縞葉枯病、穂いもち病が見られた。

## エ 調査結果

		にじのきらめき	コシヒカリ	きぬむすめ	あいちのかおりSBL	にこまる
移植後 40日 草丈	平年値* (cm)	68	64	63	56	65
	前年 (cm)	66	67	64	58	70
	本年 (cm)	66	66	64	55	65
	平年比 (%)	97	103	102	98	100
移植後 40日 茎数	平年値* (本/m <sup>2</sup> )	324	415	394	434	444
	前年 (本/m <sup>2</sup> )	421	401	391	456	458
	本年 (本/m <sup>2</sup> )	347	382	369	430	392
	平年比 (%)	107	92	94	99	88
出穂期	平年値* (月.日)	8.8	8.8	8.18	8.24	8.26
	前年 (月.日)	8.8	8.8	8.18	8.24	8.25
	本年 (月.日)	8.5	8.6	8.15	8.21	8.23
	平年差	-3	-2	-3	-3	-3
成熟期	平年値* (月.日)	9.16	9.12	9.25	10.4	10.7
	前年 (月.日)	9.20	9.15	9.26	10.1	10.4
	本年 (月.日)	9.13	9.9	9.25	9.30	10.1
	平年差	-3	-3	0	-4	-6
稈長	平年値* (cm)	69	87	80	81	85
	前年 (cm)	72	86	78	79	84
	本年 (cm)	68	86	78	76	82
	平年比 (%)	99	99	97	94	96
穂長	平年値* (cm)	20.3	19.5	18.3	20.9	19.9
	前年 (cm)	20.6	20.8	18.4	20.5	22.6
	本年 (cm)	22.0	20.9	19.0	21.6	20.0
	平年比 (%)	108	107	104	103	100
穂数	平年値* (本/m <sup>2</sup> )	304	340	304	329	300
	前年 (本/m <sup>2</sup> )	286	260	256	266	249
	本年 (本/m <sup>2</sup> )	330	332	297	271	266
	平年比 (%)	109	98	98	82	89
倒伏程度	平年値* (0~5)	0.0	2.6	0.4	0.8	0.8
	前年 (0~5)	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0
	本年 (0~5)	0.0	2.5	0.3	0.0	0.0
	平年差	0.0	-0.1	-0.1	-0.8	-0.8
玄米重	平年値* (kg/a)	51.7	52.6	54.5	53.8	54.3
	前年 (kg/a)	49.8	46.3	50.2	47.8	49.2
	本年 (kg/a)	52.7	45.6	48.0	41.5	43.5
	平年比 (%)	102	87	88	77	80
玄米 千粒重	平年値* (g)	25.4	23.0	22.9	25.5	24.0
	前年 (g)	26.1	24.8	24.4	25.3	24.1
	本年 (g)	26.2	24.4	24.1	25.8	25.0
	平年比 (%)	103	106	105	101	104
屑米重 歩合	平年値* (%)	1.5	3.0	2.1	1.0	2.5
	前年 (%)	0.5	0.7	0.7	0.5	0.9
	本年 (%)	2.3	5.0	2.7	0.9	1.4
	平年差	0.8	2.0	0.6	-0.1	-1.1
玄米 外観 質	平年値*	4.5	5.2	4.8	4.7	4.5
	前年	4.0	5.5	5.0	4.5	5.0
	本年	4.7	5.6	4.9	5.1	4.8
	平年差	0.2	0.4	0.1	0.4	0.3

\* 平年値は平成9年から前年までの平均値。但し、平成9年以降に採用された品種については奨励品種決定試験に供試されてからの平均値。

\* 本年産「にじのきらめき」は多肥栽培での結果。

### (3) 病害虫の発生状況

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
葉いもち	平年：遅い 前年：遅い	平年：やや少 前年：少	発生は平年よりやや少なかった。	いもち病の有効成分が含まれた箱施用剤が普及している。また気温が高く特に助長される気象ではなかったと考えられる。	長期残効性の箱施用剤による防除が実施された。
穂いもち	平年：少 前年：並	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	葉いもちが少なかったため、発生しにくかったと考えられる。	出穂期を中心に防除が実施された。
紋枯病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	発生は平年よりやや少なかった。	紋枯病の有効成分が含まれた箱施用剤の普及により、発生が抑制されたと考えられる。	長期残効性の箱施用剤による防除が実施された。
白葉枯病	平年：－ 前年：－	平年：やや多 前年：やや多	巡回調査でわずかに確認された。	近年発生がみられておらず、伝染源が少ないと考えられる。	長期残効性の箱施用剤による防除が実施された。
もみ枯細菌病 (もみ枯症)	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	薬剤防除により発生が抑制されたと考えられる。	長期残効性の箱施用剤による防除が実施された。
ごま葉枯病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：やや少	発生は平年より多かった。	本病は近年発生が増加傾向にある。夏期の高温や地力低下などが原因と考えられる。	土壌改良剤の施用及び薬剤散布が実施された。
黄化萎縮病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生はみられなかった。	近年発生がみられておらず、伝染源が少ないと考えられる。	本病対象の防除は行われなかった。
ばか苗病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	巡回調査では発生はみられなかった。	種子更新及び種子消毒により、抑制されたと考えられる。	種子消毒が実施されている。
稲こうじ病	平年：遅い 前年：遅い	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	気温が高く特に助長される気象ではなかったと考えられる。	本病を対象とした防除を行っていないほ場が多い。
葉しょう褐変病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生はみられなかった。	近年発生がみられておらず、伝染源が少ないと考えられる。	本病対象の防除は行われなかった。
縞葉枯病	平年：遅い 前年：遅い	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	ヒメトビウンカによる媒介が少なかったと考えられる。	長期残効性の箱施用剤が施用された。また、縞葉枯病多発地域ではヒメトビウンカの防除の実施、抵抗性品種の導入が進められた。
萎縮病	平年：－ 前年：－	平年：やや多 前年：やや多	例年はみられないが、今年度は巡回調査でわずかに確認された。	ツマグロヨコバイによる媒介があったと考えられる。	長期残効性の箱施用剤が施用された。また、薬剤防除が実施された。



病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ヒメトビウンカ	平年：遅い 前年：遅い	平年：やや多 前年：並	たたき落とし調査による捕獲数は平年よりやや多かった。予察灯による誘殺数も平年より多く推移した。	近年、発生量・発生面積が減少傾向にあったが、気温が平年より高かった影響により増殖が促進されたと考えられる。	長期残効性箱処理剤が使用された。縞葉枯病多発地域では抵抗性品種が導入されている。
ツマグロヨコバイ	平年：遅い 前年：遅い	平年：やや少 前年：やや少	たたき落とし調査による捕獲数は平年よりやや少なかったが、予察灯による誘殺数は平年より多く推移した。	防除を行った水田では発生が抑えられており、ほ場により発生量に差があると考えられる。	長期残効性箱処理剤が使用された。
ニカメイガ	平年：遅い 前年：遅い	平年：やや少 前年：やや少	巡回調査では平年よりやや少なかった。予察灯およびフェロモントラップによる誘殺数は、平年並～多く推移した。	近年、発生は少なく推移していたが、飼料米等、多様な品種が防除圧の低い中で栽培されており、発生の増加が懸念される。	長期残効性箱処理剤が使用された。
セジロウンカ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや多	たたき落とし調査による捕獲数は平年よりやや少なかった。予察灯による誘殺数は、7月は平年より多かったが、その後は少なく推移した。	飛来量が平年より少なかったことに加え、効果の高い長期残効性箱処理剤の導入により増殖が抑えられた。	長期残効性箱処理剤が使用された。
トビイロウンカ	平年：並 前年：遅い	平年：少 前年：少	たたき落とし調査による捕殺数および予察灯の誘殺数ともに平年より少なかった。	飛来量が平年より少なかったことに加え、効果の高い長期残効性箱処理剤の導入により増殖が抑えられた。	本種に効果の高い長期残効性箱処理剤が使用された。また、本田における防除が実施された。
斑点米カメムシ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：やや少	5～7月の畦畔雑草すくい取り調査による捕獲数は平年並～やや多く、8～9月の水田内のすくい取り調査でも平年より多かった。優占種はアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメで、成熟期にはミナミアオカメムシ、イネカメムシが多発した。予察灯では平年より多く誘殺された。	気温が高かった影響により増殖が促進されたと考えられる。また、本田防除が徹底されないほ場では発生が増加した。	本田防除が出穂期以降1～2回実施された。
イチモンジセセリ	平年：並 前年：遅い	平年：並 前年：並	発生は平年より遅かったものの、生育後半まで被害がみられた。	近年、少発生で経過している。	発生地域では本田防除が実施された。
アワヨトウ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	発生はみられなかった。	近年、少発生で経過している。	対象とした防除はほとんど行われていない。
コブノメイガ	平年：遅い 前年：並	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	飛来量が少なかったと考えられる。	発生地域では本田防除が実施された。
イネミズゾウムシ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	適期防除が実施された。	長期残効性箱処理剤が使用された。
イネドロオイムシ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	主に県東部の高冷地で発生する。巡回調査地点における被害株率は平年並であった。	例年、発生は常発地域のみである。	箱処理剤が使用された。
スクミリンゴガイ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	県内各地で発生面積が拡大している。巡回調査では概ね平年並の発生であった。	近年、分布が拡大傾向にあり、温暖化により越冬量が増加している。	発生地では耕種的防除が実施され、一部では本田防除が実施された。
フタオビコヤガ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：少	巡回調査では平年並の発生であった。	近年被害が増加傾向にある。	多発生の場合、防除が実施されることもある。

(病害虫防除所)

## (4) 稲作期間の気象概況

### ア 気温

- ・ 4月第1半旬から5月第2半旬は、平年と比べ7%高かった。
- ・ 5月第3半旬は、平年と比べ6%低かった。
- ・ 5月第4半旬から9月は、平年と比べ4から10%高かった。
- ・ 10月は、平年並であった。
- ・ 栽培期間全体（4月～10月）を通じた平均気温は、平年差+1.1℃/日と高かった。

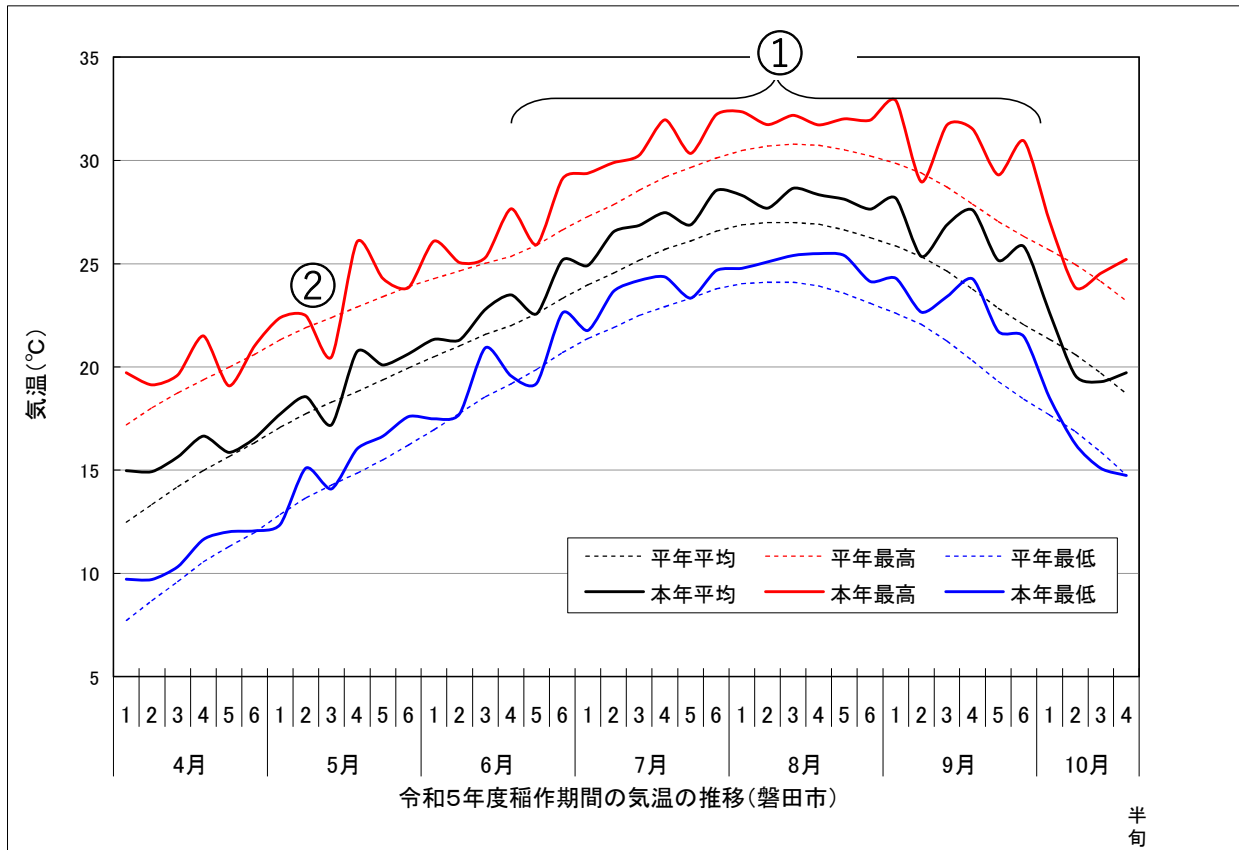
### イ 日照

- ・ 4月第1半旬～第4半旬は、平年と比べやや多かった（+28時間）。
- ・ 4月第5半旬～第6半旬は、平年と比べ少なかった（-18時間）。
- ・ 5月第1半旬～5月第5半旬は、平年と比べやや多かった（+40時間）。
- ・ 5月第6半旬～6月第3半旬は、平年と比べ少なかった（-39時間）。
- ・ 6月第4半旬は、平年と比べ多かった（+24時間）。
- ・ 6月第5半旬～7月第3半旬は、平年並みであった（+9時間）。
- ・ 7月第4半旬～8月第1半旬は、平年と比べ多かった（+84時間）。
- ・ 8月第2半旬～9月第1半旬は、平年並であった（+20時間）。
- ・ 9月第2半旬は、平年と比べやや少なかった（-20時間）。
- ・ 9月第3半旬～10月第3半旬は、平年と比べやや多かった（+62時間）。
- ・ 栽培期間全体を通じた日照時間平年差+1.2時間/日とやや多かった。

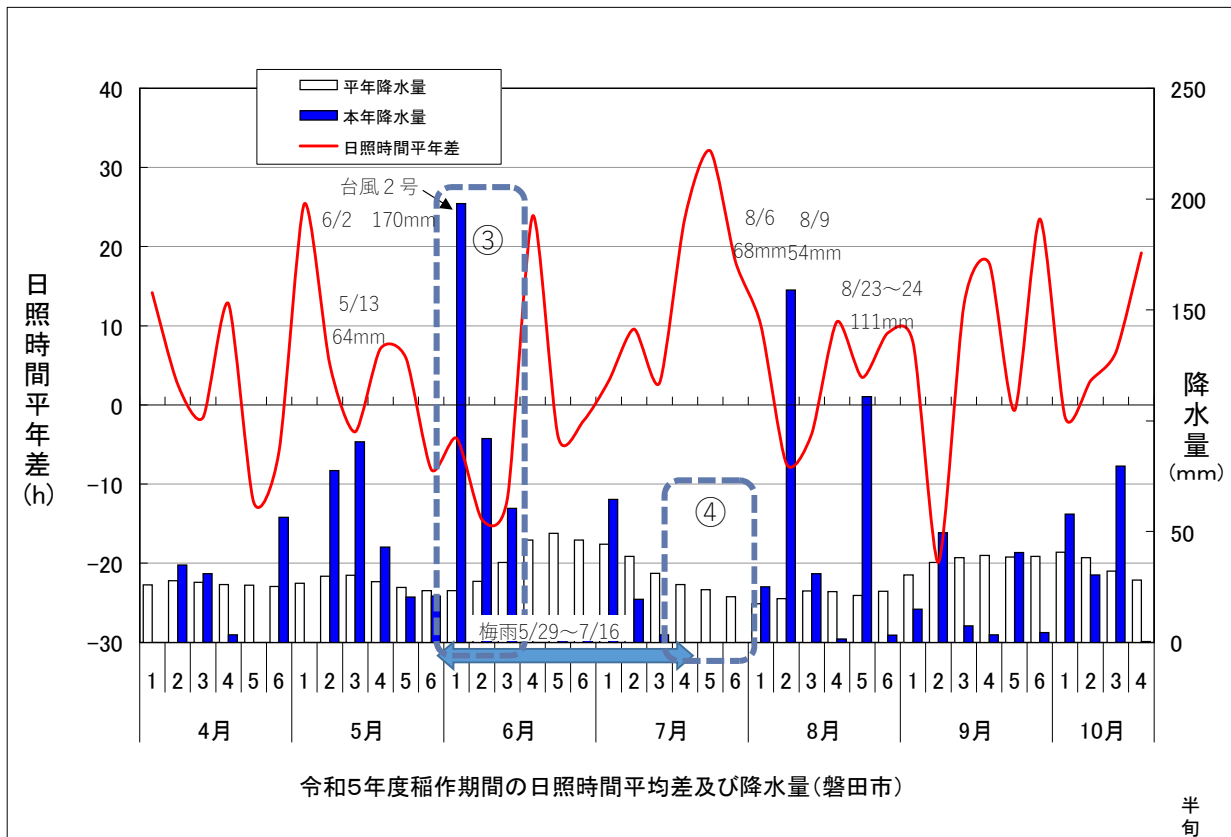
### ウ 降水量

- ・ 4月は平年と比べやや少なかった（80%）。
- ・ 5月は、5月13日に大雨(64mm)があり、平年と比べ多かった（155%）。
- ・ 6月は2日に台風2号（170mm）、8日に26mm、9日に47mm、11日に41mmの降雨があり、平年と比べ多かった（158%）。
- ・ 東海地方の梅雨入りは、平年より8日早い5月29日ごろ、梅雨明けは平年より13日早い7月16日ごろであった。
- ・ 7月は16日から31日まで雨がなく、平年と比べ少なかった（47%）。
- ・ 8月は、6日（68mm）、23日（61mm）、24日（51mm）に大雨があり、平年と比べ多かった（259%）。
- ・ 9月は平年と比べ少なかった（54%）。
- ・ 10月は平年並であった（91%）。
- ・ 栽培期間全体を通じた降水量は、平年と比べ多かった（114%）。

※気象データの観測地は磐田地方気象観測所。



- 注 1) 全期間にわたる高温 (特に9月)
- 2) 5月中旬の低温



- 3) 6月上旬から中旬の多雨・冠水
- 4) 7月中下旬の渇水

## 2 全国の稲生産状況

### (1) 令和5年産水稻の生産状況

全国・都道府県	水 稲							
	作付面積 (子実用) ① ha	10a 当たり収量 ② kg	収穫量 (子実用) ①×② t	(参考) 農家等が使用しているふるい目幅で選別			参考	
				10a 当たり収量 ③ kg	10a 当たり平年収量 ④ kg	作況指数 ③/④	主食用作付面積 ⑤ ha	収穫量(主食用) ⑤×② t
全 国	1,344,000	533	7,165,000	515	536	101	1,242,000	6,610,000
北 海 道	93,300	579	540,200	555	561	104	82,200	475,900
青 森	40,500	614	248,700	587	603	102	33,800	207,500
岩 手	45,200	551	249,100	535	540	104	42,800	235,800
宮 城	60,900	566	344,700	537	541	105	57,200	323,800
秋 田	83,000	552	458,200	524	577	97	69,900	385,800
山 形	61,000	589	359,300	564	598	100	52,400	308,600
福 島	58,400	561	327,600	542	551	102	53,100	297,900
茨 城	59,700	530	316,400	513	527	101	57,800	306,300
栃 木	51,400	553	284,200	537	540	104	47,200	261,000
群 馬	13,900	504	70,100	494	498	102	12,400	62,500
埼 玉	28,400	484	137,500	472	494	99	27,500	133,100
千 葉	47,700	557	265,700	550	544	103	45,800	255,100
東 京	111	419	465	414	414	102	111	465
神 奈 川	2,850	499	14,200	486	494	102	2,850	14,200
新 潟	115,800	511	591,700	502	546	95	100,600	514,100
富 山	35,200	528	185,900	511	547	98	31,200	164,700
石 川	23,400	518	121,200	508	523	100	20,800	107,700
福 井	23,300	500	116,500	475	519	98	21,500	107,500
山 梨	4,750	542	25,700	533	547	100	4,660	25,300
長 野	30,600	614	187,900	601	619	100	29,300	179,900
岐 阜	20,700	484	100,200	476	485	100	19,700	95,300
静 岡	15,100	519	78,400	512	520	100	15,000	77,900
愛 知	25,800	480	123,800	468	507	96	24,700	118,600
三 重	25,200	501	126,300	483	500	101	24,900	124,700
滋 賀	28,300	504	142,600	470	518	97	27,000	136,100
京 都	13,800	502	69,300	489	510	99	13,200	66,300
大 阪	4,440	503	22,300	489	495	102	4,430	22,300
兵 庫	34,200	497	170,000	478	501	100	32,500	161,500
奈 良	8,250	517	42,700	507	513	101	8,200	42,400
和 歌 山	5,780	506	29,200	498	497	103	5,780	29,200
鳥 取	11,900	481	57,200	469	514	95	11,700	56,300
島 根	16,100	515	82,900	489	511	101	15,900	81,900
岡 山	27,800	514	142,900	497	526	99	26,900	138,300
広 島	21,100	535	112,900	522	528	103	20,500	109,700
山 口	17,100	510	87,200	493	504	103	16,000	81,600
徳 島	9,750	469	45,700	459	474	99	9,480	44,500
香 川	10,200	496	50,600	485	496	101	10,100	50,100
愛 媛	12,800	505	64,600	483	498	103	12,800	64,600
高 知	10,300	454	46,800	445	456	100	10,200	46,300
福 岡	32,800	480	157,400	458	496	100	32,300	155,000
佐 賀	22,200	521	115,700	500	519	103	21,700	113,100
長 崎	10,000	488	48,800	477	485	102	10,000	48,800
熊 本	30,000	518	155,400	496	513	104	28,900	149,700
大 分	18,300	491	89,900	479	499	101	18,100	88,900
宮 崎	14,700	486	71,400	477	496	99	12,700	61,700
鹿 児 島	17,200	485	83,400	476	485	101	15,800	76,600
沖 縄	576	321	1,850	314	309	104	544	1,750

(資料：農林水産統計)

注1)作付面積(子実用)とは、青刈り面積(飼料用米等を含む。)を除いた面積である。

注2)農家等が使用しているふるい目幅で選別された10a 当たり収量、10a 当たり平年収量及び作況指数については、全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅(北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

## (2) 令和4年産都道府県別水稻うるち品種別作付状況

	1位		2位		3位		3品種計 %
	品種	%	品種	%	品種	%	
北海道	ななつぼし	49.1	ゆめぴりか	27.9	ふっくりんこ	6.3	83.2
青森	まっしぐら	80.6	つがるロマン	13.0	青天の霹靂	5.6	99.2
岩手	ひとめぼれ	70.6	あきたこまち	14.9	いわてっこ	5.5	91.0
宮城	ひとめぼれ	72.9	つや姫	9.0	ササニシキ	7.0	89.0
秋田	あきたこまち	77.1	ひとめぼれ	8.8	めんこいな	6.7	92.5
山形	はえぬき	61.9	つや姫	16.5	雪若丸	6.7	85.2
福島	コシヒカリ	51.7	天のつぶ	22.8	ひとめぼれ	18.6	93.1
茨城	コシヒカリ	73.1	あきたこまち	11.8	あさひの夢	5.0	89.9
栃木	コシヒカリ	62.7	とちぎの星	14.9	あさひの夢	11.9	89.6
群馬	あさひの夢	44.8	コシヒカリ	24.0	ひとめぼれ	12.9	81.7
埼玉	彩のかがやき	30.2	コシヒカリ	29.9	彩のきずな	22.9	83.0
千葉	コシヒカリ	55.6	ふさこがね	26.2	ふさおとめ	10.5	92.3
神奈川	はるみ	71.6	キヌヒカリ	16.8	てんこもり	11.6	100.0
新潟	コシヒカリ	71.0	こしいぶき	18.3	ゆきん子舞	4.8	94.1
富山	コシヒカリ	73.6	てんたかく	11.3	てんこもり	7.4	92.3
石川	コシヒカリ	60.7	ゆめみづほ	21.1	ひやくまん穀	8.6	90.3
福井	コシヒカリ	48.7	ハナエチゼン	26.5	あきさかり	8.9	84.0
山梨	コシヒカリ	73.2	ヒノヒカリ	8.3	あさひの夢	4.0	85.6
長野	コシヒカリ	79.7	あきたこまち	10.5	風さやか	5.8	96.0
岐阜	ハツシモ	40.0	コシヒカリ	33.2	ほしじるし	9.2	82.5
静岡	コシヒカリ	44.9	きぬむすめ	19.4	あいちのかおり	10.3	74.7
愛知	あいちのかおり	40.6	コシヒカリ	24.6	ミネアサヒ	5.9	71.1
三重	コシヒカリ	73.8	キヌヒカリ	8.5	みえのゆめ	3.2	85.5
滋賀	コシヒカリ	38.7	キヌヒカリ	21.7	みずかがみ	12.1	72.5
京都	コシヒカリ	58.4	キヌヒカリ	20.2	ヒノヒカリ	16.0	94.5
大阪	ヒノヒカリ	68.7	キヌヒカリ	15.5	きぬむすめ	8.9	93.2
兵庫	コシヒカリ	43.9	ヒノヒカリ	22.8	キヌヒカリ	16.4	83.1
奈良	ヒノヒカリ	74.2	ひとめぼれ	9.9	コシヒカリ	8.3	92.3
和歌山	キヌヒカリ	42.6	きぬむすめ	22.2	コシヒカリ	9.7	74.6
鳥取	コシヒカリ	38.5	きぬむすめ	27.3	ひとめぼれ	19.3	85.1
島根	コシヒカリ	50.1	きぬむすめ	36.4	つや姫	10.4	96.9
岡山	アケボノ	17.9	コシヒカリ	17.6	きぬむすめ	17.6	53.2
広島	コシヒカリ	45.2	あきさかり	16.4	ヒノヒカリ	11.8	73.4
山口	コシヒカリ	29.3	ひとめぼれ	23.3	ヒノヒカリ	19.0	71.5
徳島	コシヒカリ	54.2	あきさかり	28.2	キヌヒカリ	6.4	88.9
香川	コシヒカリ	38.7	ヒノヒカリ	29.9	あきさかり	14.2	82.8
愛媛	コシヒカリ	34.4	ヒノヒカリ	26.6	あきたこまち	17.2	78.2
高知	コシヒカリ	50.5	ヒノヒカリ	28.6	にこまる	6.4	85.4
福岡	夢つくし	42.7	ヒノヒカリ	29.7	元気つくし	19.1	91.5
佐賀	さがびより	33.4	夢しずく	33.0	ヒノヒカリ	20.5	86.8
長崎	ヒノヒカリ	44.8	なつほのか	21.4	にこまる	20.0	86.2
熊本	ヒノヒカリ	49.9	森のくまさん	14.3	コシヒカリ	11.7	75.8
大分	ヒノヒカリ	70.2	ひとめぼれ	10.9	なつほのか	6.2	87.3
宮崎	ヒノヒカリ	59.3	コシヒカリ	35.1	おてんとそだち	1.4	95.8
鹿児島	ヒノヒカリ	63.1	コシヒカリ	13.3	あきほなみ	11.5	87.9
沖縄	ひとめぼれ	76.2	ちゅらひかり	15.1	ミルクィーサマー	2.9	94.2

(資料):(公社)米穀安定供給確保支援機構)

注) 四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

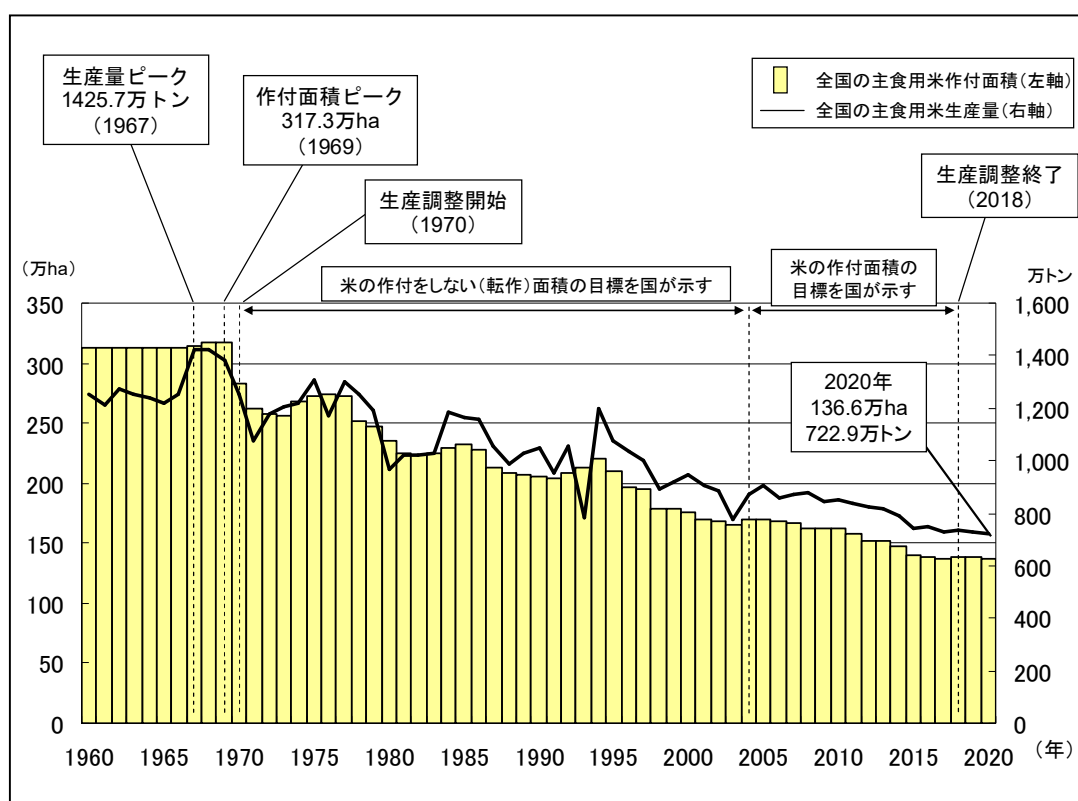
### 3 米の需給状況

#### (1) 需給の推移 (全国)

米は、戦後から作付面積の拡大と反収の向上により生産量を拡大し続け<sup>\*</sup>、1967年に自給を達成した。それ以降、米の需給均衡を図るため、生産調整が1970年から開始され、当初は国から米の作付をしない面積（転作面積）が示されていたが、2004年からは米の作付面積の目標が示されている。作付目標の設定は2017年度で終了し、2018年度からは、生産者の判断に基づき、需要に応じた米生産の推進を図ることとなった。

※水稲の作付面積 1945年：280万ha、1967年：315万ha

水稲の反収 1945年：208kg/10a、1967年：453kg/10a



資料：農林水産統計

#### (2) 需給状況 (全国) (四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある)

##### ア 作柄

令和5年産の全国の水稲の単収は533kg/10a、県内では519kg/10aであった。農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は、全国では101、静岡県では100であった。

収穫量（子実用）は全国が7,165,000トン（前年産比-104,000トン）、静岡県が77,900トン（前年産比+1,500トン）であった。

## イ 需給見通し

### (ア) 令和4/5年の需要実績

令和4/5年の主食用米等の需要実績は691万トンで、令和3/4年の需要実績(702万トン)を11万トン下回った。

### (イ) 令和5/6年及び令和6/7年の需給見通し

#### a 令和5/6年の需給見通し

令和5年6月末の民間在庫量は197万トンであり、令和5年産主食用米等の生産量は、661万トンであることから、令和5/6年の主食用米等の供給量の合計は858万トンとなる。

また、令和5/6年の需要量見通しは「一人当たり消費量×人口」のトレンドにより計算<sup>\*</sup>され、681万トンと試算される。

※需要量見通しは平成8/9年からの需要実績を用いたトレンド(回帰式)で算出していたが、平成20年から人口が減少し始め、一人当たり消費量の減少に人口減少が加わり、需要量の減少がより大きくなったことから、見通しと実績に乖離が生じるようになった。そこで、令和元年度から、「一人当たり消費量×人口」によりトレンドを算出する方法へ変更となった。

#### 令和5/6年の主食用米等の需給見通し (単位:万トン)

		主食用米等
令和5年6月末民間在庫量	A	197
令和5年産主食用米等生産量	B	661
令和5/6年主食用米等供給量計	C=A+B	858
令和5/6年主食用米等需要量	D	681
令和6年6月末民間在庫量	E=C-D	177

注:「令和5/6年」とは、令和5年7月から令和6年6月までの1年間。

#### b 令和6/7年の需給見通し

令和6年6月末の民間在庫量はEから177万トンと見通される。

また、令和6/7年の需要量見通しはトレンドから670万トンと試算される。生産量の見通しは、今後も需要量が毎年10万トン程度減少することが見込まれる中で、引き続き各産地で需要に応じた生産・販売を行っていく必要があることから、令和5年主食用米等の生産量の見通しと同水準の669万トンと設定する。

以上のことから、令和6年6月末の民間在庫量は177万トンと見通される。

令和6/7年の主食用米等の需給見通し (単位:万トン)

		主食用米等
令和6年6月末民間在庫量	A	177
令和6年産主食用米等生産量	B	669
令和6/7年主食用米等供給量計	C=A+B	846
令和6/7年主食用米等需要量	D	670
令和7年6月末民間在庫量	E=C-D	176

(ウ) 生産数量目標

生産数量目標/需要量の目安の推移

年産	生産数量目標		需要量の目安*						
	H28/29	H29/30	H30/1	R1/2	R2/3	R3/4	R4/5	R5/6	R6/7
全国 (万 t)	743	735	735	727	717	693	691	681	670
静岡県 (t)	82,037	81,153	81,153	79,054	77,310	75,220	73,870	72,674	71,978

※需要量の目安は、県農業再生協議会経営所得安定対策推進部会において、当初に示した数値



### (3) 需給状況（静岡県）

静岡県における令和5年産主食用米の需要量は198,531トンと見込まれる。一方、県内の主食用米生産量は77,900トンであり、需要量との差分である120,631トンは県外からの移入で賄われていると推定される。

県内生産77,900トンのうち、JA静岡経済連及び各農業協同組合への集荷が16,459トン、それ以外への集荷が61,441トンである。

なお、JA静岡経済連及び各農協への集荷以外の集荷61,441トンのうち、2,050トンが農家で自家消費されていると仮定すると、残りの59,391トンが農家直売等で消費されたと推定される。

○県内主食用需要見込（令和5年産） 198,531 トン

【内訳】

JA 静岡経済連 及び各農協集荷 以外 (30.9%)  <b>61,441 トン</b>  農家消費 2,050 トン 農家直販等 59,391 トン	JA 静岡経済連 及び農協集荷 (8.3%)  <b>16,459 トン</b>	県外からの移入 (60.8%)  <b>120,631 トン</b>
県内主食用生産量 (39.2%)  <b>77,900 トン</b>		

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

<算出根拠>

○県内主食用米生産量 77,900 トン（農林水産統計）

○JA静岡経済連及び農協集荷量 16,459 トン（農産物検査結果）

$$\begin{array}{l} \text{全国平均消費量} \times \text{静岡県人口} \\ 50.9\text{kg} \quad \times 3,533,780 \text{人} \end{array}$$

○県内需要見込 = 精米消費量 / 換算率  
198,531 トン = 179,869 トン / 0.906

$$\begin{array}{l} \text{(販売農家)} \\ \text{県内農家人口} / \text{県内総農家戸数} \\ 66,322 \text{人} / 25,938 \text{戸} \end{array}$$

$$\begin{array}{l} \text{田のある経営体数} \times \text{県内農家人口/戸} \\ 15,753 \text{戸} \times 2.5569 \text{人/戸} \end{array}$$

○農家消費 = 水稻農家人口 × 全国平均消費量

$$2,050 \text{ トン} = 40,280 \text{ 人} \times 50.9\text{kg}$$

○農家直売等 = 県内生産量 - JA静岡経済連及び各農協集荷実績 - 農家消費

$$59,391 \text{ トン} = 77,900 \text{ トン} - 16,459 \text{ トン} - 2,050 \text{ トン}$$

(注)・玄米から精米の換算率を90.6%と仮定

- ・消費量は食料需給表より（令和5年7月公表令和4年度概算値）
- ・静岡県推計人口は「統計センターしずおか」より（令和6年5月1日現在）
- ・県内生産量は農林水産統計より（令和5年産主食用米収穫量）
- ・農産物検査結果は水稻「うるち」と「もち」の「玄米」と「もみ」の集計値より（令和6年3月末）
- ・県内販売農家人口、農家数、田のある経営体数は2020年農林業センサスより

## (4) 消費量の推移(全国)

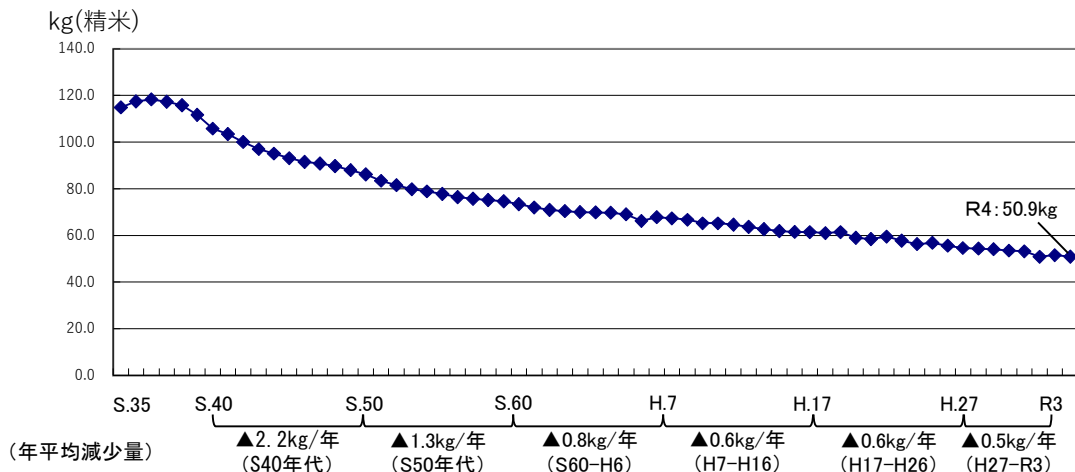
昭和35年度からの米の1人1年当たり消費量推移

年度	1人1年 当たり数量 (kg)	増減率(%)
昭和35	114.9	-
40	111.7	▲ 2.8
45	95.1	▲ 14.9
50	88.0	▲ 7.5
55	78.9	▲ 10.3
60	74.6	▲ 5.4
平成元	70.4	▲ 5.6
5	69.1	▲ 1.8
10	65.2	▲ 5.6
15	61.9	▲ 5.1
20	59.0	▲ 4.7
21	58.5	▲ 0.8

年度	1人1年 当たり数量 (kg)	増減率(%)
平成22	59.5	1.7
23	57.8	▲ 2.9
24	56.3	▲ 2.6
25	56.9	1.1
26	55.2	▲ 3.0
27	54.6	▲ 1.1
28	54.4	▲ 0.4
29	54.1	▲ 0.6
30	53.5	▲ 1.1
令和元	53.2	▲ 0.6
2	50.8	▲ 4.5
3	51.5	1.4
4	50.9	▲ 1.2

資料：農林水産省「食料需給表」

注) 年間の国内の食糧消費用として仕向けられた数量を総人口で除した値であり、飼料用、種子用、加工用(酒類、みそ等)の米は含まない。  
なお、加工米飯、もち、米菓、米穀粉は含まれる。



米の1人1年当たり消費量は、昭和37年度の118.3kgをピークに、ほぼ一貫して減少している。減少の理由としては、多様な食文化・料理が浸透したことや、手間がかかる炊飯作業を敬遠し、手軽に食べられるパンや麺の消費が増加したことなどが挙げられている。消費量は、近年は概ね年1.0%ずつ減少する傾向にある。

令和3年度は1.4%増加したが、令和4年度は再び1.2%減少した。

## 4 令和5 経営所得安定対策等交付実績

(単位：件、千円)

市町名	水田活用の 直接支払交付金		畑作物の 直接支払交付金		収入減少影響 緩和交付金		合計	
	件数	交付額	件数	交付額	件数	交付額	件数	交付額
下田市	5	114					5	114
東伊豆町							0	0
河津町							0	0
南伊豆町	11	1,167			1	—	12	1,167
西伊豆町							0	0
三島市	17	10,287					17	10,287
伊豆市	2	—	1	—			3	—
伊豆の国市	172	4,387					172	4,387
函南町	13	2,348					13	2,348
沼津市	8	274					8	274
御殿場市	46	18,108	8	4,125	10	1,495	64	23,728
裾野市	53	2,011	9	3,221			62	5,232
小山町	33	2,808			6	615	39	3,423
富士宮市	30	8,328	2	—			32	8,328
富士市	28	1,025					28	1,025
静岡市	49	14,379			2	—	51	14,379
島田市	125	21,633					125	21,633
焼津市	109	32,555	2	—	7	3,801	118	36,356
藤枝市	135	13,575			1	—	136	13,575
牧之原市	91	18,332					91	18,332
吉田町	42	10,660					42	10,660
川根本町			1	—			1	—
掛川市	33	312,254	12	32,567	30	15,132	75	359,953
御前崎市	29	10,667	1	—	8	2,946	38	13,613
菊川市	49	104,964	12	11,114	18	9,466	79	125,544
森町	79	96,045	1	—	21	5,676	101	101,721
磐田市	85	339,036	7	5,086	33	40,850	125	384,972
袋井市	73	691,353	38	155,003	42	25,341	153	871,697
浜松市	22	16,990	3	530	6	3,157	31	20,677
湖西市	2	—					2	—
県計	1,341	1,737,687	97	225,918	185	109,892	1,623	2,073,497

※件数が2件以下は秘密保護から非公表、県計は公表の額

※R5以降は非公表

## 5 お米日本一コンテスト in しずおかの開催

### (1) 第20回お米日本一コンテスト in しずおか (令和5年度)

#### ア 出品申込

##### 都道府県別出品数 (34道府県)

出品数	102点	73点	53点	50点	34点	27点	23点	21点
県名	静岡県	茨城県	新潟県	長野県	山形県	高知県	群馬県	岐阜県

出品数	17点	15点	14点	8点	7点	6点	5点	4点
県名	鳥取県	山梨県	福島県	熊本県	宮城県 栃木県 奈良県	三重県 島根県	福井県 兵庫県	秋田県 徳島県

出品数	3点	2点	1点
県名	広島県 愛媛県	北海道、千葉県 石川県、京都府 岡山県	岩手県、埼玉県 愛知県、滋賀県 山口県、佐賀県

##### 品種別出品数 (41品種)

出品数	257点	65点	37点	28点	24点	13点
品種名	コシヒカリ (うちBL22点)	ゆうだい21	にこまる	ミルクークイーン	きぬむすめ	つや姫

出品数	10点	9点	6点	5点	3点
品種名	いのちの壺	歓喜の風 ひとめぼれ	農林48号	風さやか 新之助	あきさかり 星空舞 雪若丸 夢ごこち

出品数	2点	1点			
品種名	あきたこまち 縁結び くまさんの輝き てんこもり ぴかまる	あいちのかおりSBL あきまつり こしいぶき 彩のかがやき さがびより	サキホコレ ササニシキ だて正夢 ちゅらひかり 東北194号	ななつぼし にじのきらめき はたはったん ヒカリシンセイキ ひめの凜	ひやくまん穀 ふっくりんこ ミネアサヒ 結びの神 山形95号

## イ 審査日程

区 分	方 法
機器審査 11月7日(月) ～16日(火)	○3社(株)サタケ、静岡製機(株)、東洋ライス(株)の食味評価機器による評価結果により上位75点を選出 ○75点については栽培履歴を確認し、農薬取締法等の遵守を確認
最終審査 12月10日(土) 11日(日)	○食味官能審査で上位入賞者を選出し、各賞を決定 10日(1回戦)で30点を選出 11日(2回戦、準決勝、決勝)トーナメント方式で上位入賞者を選出し、各賞を決定 ○審査員:米・食味鑑定士、お米マイスター、お米アドバイザー等 計15名

## ウ 表彰

最終審査1回戦を通過した30点を全て金賞以上とし、以下の各賞を決定

区 分	基 準
実行委員会会長賞(特別最高金賞)	最高金賞のうち最上位
最高金賞	決勝に残った上位6点(特別最高金賞を含む)
静岡県知事賞	静岡県産のうち最上位

## (2) お米日本一コンテストinしずおか開催概要

	2004年 (第1回)	2005年 (第2回)	2006年 (第3回)	2007年 (第4回)	2008年 (第5回)	2009年 (第6回)	2010年 (第7回)	2011年 (第8回)	2012年 (第9回)	2013年 (第10回)
出品数	223	257	315	396	359	387	397	378	422	452
うち県内出品数	49	61	83	69	84	68	84	79	82	96
東部地区	20	22	32	35	36	37	38	37	32	48
中部地区	5	10	14	9	14	9	13	7	6	11
西部地区	24	29	37	25	34	22	33	35	44	37
都道府県数	32	34	37	40	36	38	36	32	35	41
県内市町数	14	17	14	12	12	14	15	14	11	15
品種数	18	21	22	28	20	28	34	30	36	45

	2014年 (第11回)	2015年 (第12回)	2016年 (第13回)	2017年 (第14回)	2018年 (第15回)	2019年 (第16回)	2020年 (第17回)	2021年 (第18回)	2022年 (第19回)	2023年 (第20回)
出品数	504	587	497	522	580	601	597	439	539	510
うち県内出品数	103	100	93	105	137	125	129	93	109	102
東部地区	44	41	34	44	67	58	68	56	60	56
中部地区	21	10	10	12	10	16	11	7	12	12
西部地区	38	49	49	49	60	51	50	30	37	34
都道府県数	36	39	38	36	37	37	34	33	33	34
県内市町数	18	16	12	14	15	15	16	11	13	13
品種数	46	54	49	43	50	54	55	55	49	41

## 6 「にじのきらめき」の来歴及び特性の概要

### (1) 来歴

「にじのきらめき」は、多収で高温登熟耐性が優れる「西南136号」(のちの「なつほのか」)を母に、縞葉枯抵抗性を有する「北陸223号」を父とし、平成21年夏に農研機構中央農研センター 北陸拠点(新潟県 上越市)において交配した後代から育成された。

平成21年～平成22年にF<sub>1</sub>～F<sub>3</sub>を温室内などで養成、平成23にF<sub>4</sub>で個体選抜を行い、以後は系統育種法により選抜固定を行った。

平成25年F<sub>6</sub>より「収9390」の系統番号を付与し、育成地において生産力検定試験や特性検定試験等に供試した。平成27年F<sub>8</sub>より「北陸263号」の系統名を付与し、各県の奨励品種決定試験等への種子配布を行い、地域適応性を検討してきた。

その後、各地域で優れた特性を示し、普及が見込まれたことから、平成30年に「にじのきらめき」の名で品種登録された。

### (2) 本県での試験結果

本県では、配布開始初年度の平成27年より奨励品種決定試験に供試した。平成27年～平成28年の2年間で予備調査に供試したところ、本県においても優れた特性を示したことから、平成29年より本調査に編入した。

本調査では、平成29年～令和2年の4年間に渡って供試した。平成30年より、現地試験などのより詳細な調査を行ったところ、所内試験と同様に優れた特性を示し、「キヌヒカリ」よりも優れていることが確認できた。このことから、奨励品種候補として有望であるとの結論に至り、令和2年冬に「奨励品種候補」と判定した。

### (3) 系譜



#### (4) 特性

(農林技術研究所 H30～R2 の早期栽培試験結果と育成地情報に基づく)

- ① 「キヌヒカリ」と同じ早生熟期で、出穂期は3日程度早く、成熟期はほぼ同日であるため、「キヌヒカリ」より登熟期間が数日長い。
- ② 稈長は66cm程度で「キヌヒカリ」より約11cm短い。  
穂長は20cm程度で、「キヌヒカリ」より約2cm長い。  
穂数は、標肥で390本/m<sup>2</sup>程度、多肥で425本/m<sup>2</sup>程度で「キヌヒカリ」より30本/m<sup>2</sup>程度多い。  
草型は、穂数と穂長のバランスがとれた'中間型'に属する。
- ③ 稈質は「中」、稈の太さは「中」で、それぞれ「キヌヒカリ」と同等である。  
耐倒伏性は「キヌヒカリ」と同様に優れる。
- ④ 玄米千粒重は23.1g程度とやや大きい。白未熟粒の発生が少なく、玄米外観品質は「キヌヒカリ」より明らかに優れる。
- ⑤ 収量は、標肥栽培・多肥栽培ともに「キヌヒカリ」より12%程度多い。標肥の精玄米重は、59.0kg/a程度である。
- ⑥ 高温登熟耐性は'やや強'で、「キヌヒカリ」の'やや弱'よりかなり優れる。
- ⑦ 穂発芽性は'難'で、「キヌヒカリ」の'やや易'よりかなり優れる。
- ⑧ いもち病抵抗性の推定遺伝子型は'*Pia, Pii*'で、ほ場抵抗性は、葉いもちが'中'、穂いもちが'強'であり「キヌヒカリ」より優れる。
- ⑨ 縞葉枯病抵抗性を有する。(「キヌヒカリ」は'罹病性')
- ⑩ 食味は極良食味米である「キヌヒカリ」と同等以上で、良好である。

#### (5) 栽培上の留意点

- ① 穂発芽性は'難'で、種子の休眠が深い傾向がある。浸種時の積算水温(水温×日数)の目安は、120℃程度とする。水温15℃前後の場合、「にじのきらめき」は「コシヒカリ」より1日程、浸種時間を長くする。
- ② 葉いもちの抵抗性は'中'であるため、必要に応じて防除を適切に行う。
- ③ 白葉枯病抵抗性は「やや弱」で白葉枯病に弱いため、本病の常発地では箱施用剤の使用や本田防除を徹底する。

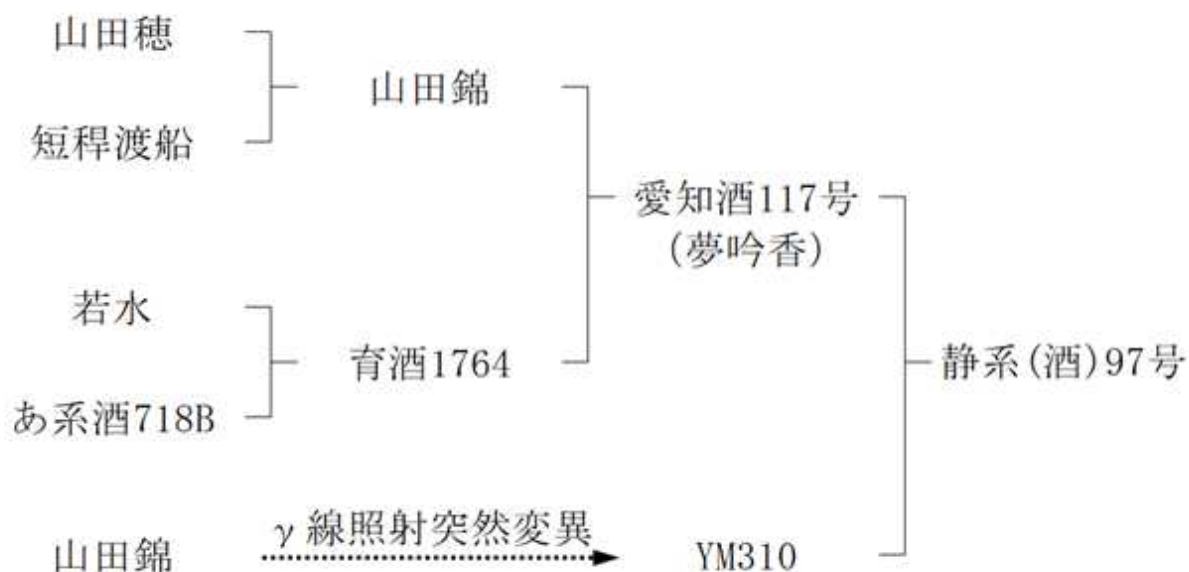
## 7 「令和誉富士」の来歴及び特性の概要

### (1) 来歴

「令和誉富士」は、愛知酒 117 号（のちの「夢吟香」）を母に、山田錦  $\gamma$  線照射突然変異系統の YM310 を父とし、平成 20 年 8 月に静岡県農林技術研究所栽培技術部土地利用型研究（磐田市三ヶ野・当時）において交配した後代から集団育種法により育成した。

平成 20～21 年に F<sub>1</sub> を温室内で養成、平成 21 年に F<sub>2</sub> 採種を行い、平成 22 年～23 年に集団採種により F<sub>3</sub>～F<sub>4</sub> の世代で遺伝的な固定を進めた。平成 24 年に F<sub>5</sub> 世代で個体選抜を、平成 25 年に系統選抜を行い、以後、系統育種法により選抜と遺伝的純度の固定を行った。平成 26 年 F<sub>7</sub> 世代から「S1010-1」の系統番号で生産力検定試験に、平成 27 年 F<sub>8</sub> 世代から奨励品種決定試験予備調査に供試し、平成 29 年 F<sub>10</sub> 世代からは「静系（酒）97 号」の系統名で奨励品種決定試験本調査に編入して優れた特性を示したことから、令和 4 年 1 月に品種登録出願を行い、同年 3 月に奨励品種に採用された。

### (2) 系譜





### (3) 特性

(農林技術研究所 H27～R3 年の試験結果と R2・3 年の現地試験結果に基づく)

#### ア 出穂期及び成熟期

- ・出穂・成熟期は「誉富士」より 1 日程度遅い晩生熟期である。
- ・6 月 1 日前後の移植で 8 月 25 日頃に出穂期、10 月 3 日頃成熟期に達する。

#### イ 草型

- ・稈長は「誉富士」より約 14cm 長く、穂長は約 1.6cm 短く、穂数はほぼ同じであり、草型は“中間型”に属する。

#### ウ 収量性

- ・所内試験における収量は、「誉富士」対比では標肥栽培で 111%、多肥栽培で 116% 程度であり、「誉富士」より優れる。標肥栽培の精玄米重は、45.8 kg/a 程度である。
- ・現地試験においても、収量は「誉富士」対比 104～176%と優れた。
- ・粒厚の厚い粒の割合が「誉富士」より多く、屑米が少ない。

#### エ 成熟期の特性

- ・脱粒性は「誉富士」と同程度の“難”である。

#### オ 品質

- ・玄米千粒重は 28 g 程度で、「誉富士」と同様に玄米は大きい。
- ・玄米外観品質は光沢が優れるため、「誉富士」より優れる。
- ・低い方が上質の酒造が可能とされる玄米タンパク質含量は、「誉富士」より多いものの、「山田錦」と同程度である。

#### カ 障害抵抗性及び耐病性

- ・稈質は「誉富士」と比較して柔らかく、長稈であるため耐倒伏性は「誉富士」よりやや劣るものの、多肥栽培においても倒伏程度は軽微である。
- ・穂発芽性は“やや難”で、「誉富士」よりも優れる。
- ・「誉富士」と同様に葉いもちに弱い。

#### キ 醸造適性

- ・心白の発現頻度及び大きさは、「誉富士」と「山田錦」の中間程度である。
- ・玄米横断面の形状は、精米時に碎米になり難いとされる線状が多く、精米率や碎米率などの精米特性は、「誉富士」及び「山田錦」並に優れ、高度精白が可能と考えられる。

#### ク 官能評価

- ・官能評価は「誉富士」と同様に優れる。